

幼児の教育

第五十二卷 第六號



日本幼稚園協會

6

フレーベル館の28年度保育用品

- No. 41 幼児指導要録
B 5判、4頁、 定価 一部 5 円
- No. 42 幼児指導要録の趣旨と
その取扱いについて
定価 4 円
- No. 45 保育日誌
定価 1 枚 2 円
- No. 47 園籍簿
定価 1 枚 2 円
- No. 48 身体検査票
定価 1 枚 2 円
- No. 50 園のたより
A 6判28頁 定価 15 円
- No. 51 つうえんブック
定価 15 円
- No. 53 卒園臺帳
B 5判 定価 1 枚 2 円
- No. 55 保育料袋
定価 1 枚 2 円
- No. 56 保育證書 (A)
- No. 57 同 (B)
AはB 4判、BはB 5判
定価 A 7円 B 5円
- No. 58 園児募集ポスター (A)
- No. 59 同 (B)
- No. 60 同 (C)
定価 ABC 各20円
- No. 72 出席簿 (縦型)
定価 1 枚 2 円
- No. 74 園のたより用ゴム印
欠と休をあらたに入れました。
1組 14ヶ 定価 200円
- No. 75 綴込表紙
B 5判 何でも綴り込めます。
定価 50 円

- No. 101 出席カード
表紙裏に、身体検査表と月別出席表
を入れました。
A 5判13枚(表紙共) 定価 35 円
- No. 103 出席カード用貼紙
10人分12ヶ月一箱 定価 200 円
- No. 111 むりえ (初級)
- No. 112 同 (上級)
B 5判各16枚 定価 各 35 円
- No. 118 おさいく帳 (B)
- No. 119 同 (A)
鼠紙10枚、黒紙2枚
(B)はB 5判 定価 32 円
(A)はA 4判 定価 40 円
- No. 126 自由画帖 (A)
- No. 127 同 (B)
- No. 128 同 (C)
Cは上質ざら紙30枚
定価 A 35円 B 30円 C 25円
- No. 131 折紙 (特製 5 寸) 定価50円
- No. 132 同 (// 4 寸) 定価40円
- No. 133 同 (並製 5 寸) 定価35円
- No. 134 同 (// 4 寸) 定価25円
以上いずれも 1色100枚包の値段です。
色の種類は16色。(並製は15色)
- No. 155 まんてんくれよん(12色)
定価 60 円
- No. 156 同 (10色) 定価50円
- No. 157 同 (8色) 定価40円
- No. 158 お道具箱(木製)定価60円
- No. 159 同 (紙製)定価35円
- No. 160 鋏 (先丸鋏) 定価35円
- No. 168 たのしいおしごと(No. 1)
- No. 169 同 (No. 2)
定価 各 45 円
- No. 171 組別名札 (桜型)
両面色紙ばり、色の種類は赤、黄、緑、
白、桃、藤、水色の7色 定価1個2円

発行所 東京都千代田区神田 株式会社
小川町二丁目五番地

フレーベル館 振替口座東京
一九六四〇番

幼 児 の 教 育

第五十二卷

第六号

昭和二十八年六月

目 次

表紙	三 岸 節 子
人間性の涵養(2)	倉 橋 惣 三(2)
(ヌース)しつけの時機	波 多 野 完 治(4)
幼児と団体生活	山 下 俊 郎(5)
遊びと生長	小 川 正 通(10)

幼稚園児のグループリーダー形成について(2)	摩 瀬 靖 正(16)
保育研究大会の準備と処理の記録をたどつて	高 橋 寿 美 夫(21)

(講話) 生理欲望の教育(3)	加 藤 常 吉(25)
☆たのしいおしごと☆(5)	及 川 ふ み(34)
懐しい先生方へ	津 守 真(36)
6月の保育	堀 合 文 子(38)
アメリカだより	相 馬 均(44)
☆この子供たち☆	松 原 至 大(46)
教育実際指導研究会(お知らせ)	お茶の水女子大(32)
キンダーブックまつりのお知らせ(フレール館)	(9)

編集主幹 倉橋惣三

協力委員 牛島義友 及川ふみ 斎藤文雄

多田鉄雄 波多野完治 山下俊郎

編集委員 西山浪太郎 (五十音順)

発 行

日 本 幼 稚 園 協 会

人間性の涵養

(二)

倉 橋 惣 三

人間性とは、人間が人間を感じることをいう。人間を感じることは、人間どうしが、対者のこゝろもちを共感しあうことである。共感(ミットフユールン)するといふよりは、対者の感情状態に同ずるのであつて、有意的にするとかしないとかいうのでなく、同じ感じになるのである。それも理解を待つのでなく、物質に温度の伝導がある如く、人間どうしのこゝろもちの伝導である。但し物質に伝導に良否がある如く、人間にこゝろもちの伝導に良否がある。人間的伝導の良否が人間性の敏鈍である。最も非伝導の場合、つまり非人間的非人情といわれるのである。

非人情は、文学や芸術の世界においては、わざとその境地に身をおくこともあり、また、科学の世界においては、それを必須とすることもある。しかし、人間的の交渉においては普通あり得ない生活ともいえる。たゞ、その相互の関係において、極めて無関心の態度ということはある。それも、その相手に対する特殊の理由によつて、人間性の冷却される場合

のことである。時としては、無関心の奥に実は強き関心、余りに強き関心を蔵することさえある。敵意の如き場合である。即ち、相手のこゝろもちの反対のこゝろもちを楽しむ場合である。——相手が悲しきとき楽しい、相手が苦しいとき楽しいという類——これは人間性の皆無ではなくて異常である。

同情という言葉がある。多くは倫理的行為を意味するものであり、人間性の共感以上、何等かの自己犠牲を伴うものである。人間性の共感とは、そうした倫理性を伴うことを、一般の自然とし、同情も亦、人間性の至当には相違ないのであるが、厳密に言えば、同情としての人間性は本元的なものといふ難いところがある。同情に至らざる共感があり、時としては、共感のない同情もあるからである。

人間は同情せられることによつて、必ずしも同情心を養わ

れない。却て同情を要求する習癖を養われたりする。——人の同情にあまえる場合の如き——しかし共感せられることによつて他への共感が養われる。これ人間性の涵養という所以である。更に他人からの共感を得たことのないものは、共感性をもつことが少ない。幼にして人から共感される機会を欠いたものは、人にも共感することがない。

受愛の経験は人間性の基である。受愛は共感せられる経験だからである。しかし、受愛必ずしも人間性の純粹なるものでない。愛は必ずしも共感となるものでないからである。愛は屢々わがまゝであり、自己満足であつたりする。多くの場合、人は愛せられたい。しかし、愛せられたいこゝろもただけのものでなく、愛せられることによつて得られる純愛以外の幸福、それは屢々物であつたり、特権であつたり、その満足は、必ずしも愛せられるこゝろも、そのものでないことがある。そのとき、その経験は、屢々、共感せられる経験として、純なるものではない。その経験は、決して共感せられる経験でもなく、共感を養うものでもない。たゞ愛せられるときそのこゝろも、ちは最もよく共感せられるであらうことは確かである。人間性として、共感は愛より真実である。

幼児教育にあつて、愛せられる経験は、素より必要である。しかし、共感せられることは、一層必要だといえる。同情され愛される経験は、多くはよきことを伴う。しかし、人

間性の上においては、共感せられることを幸福である。それは、人間性の最も純粹なるものを経験させられ、従つて、人間性を涵養せられるからである。

これを保育者の側として見れば、幼児のこゝろに同情し、幼児を愛することは、いうまでもなく保育の要訣である。しかし、その場合、その愛の真に純粹の愛であることを心しなくてはならぬ。愛は貴い。しかし、屢々誤るものである。共感の常に純粹なるに如かない。そして、その純粹の共感によつて、人間性を育くむのである。共感すべきこと、共感すべからざることの差はあつても、共感のないことは人間が人間に触れることではない。

道徳性は批判する。共感性は批判しない。あとでは批判するとしても、そのときは、批判などいう離れた態度、客観的態度を容れないのである。道徳性は批判し、また道徳性を養うためには、批判をする必要がある。しかし、人間性そのものの浸潤においては、批判といつた人間が人間を離れて見ることはないのである。

教育者は、幼児の生活行動に対し、良否の正しい批判力をもつものである。しかし、その良否を感じるによつて、児童の人間性を涵養することはできない。児童自らが、自己の生活の良否を批判している場合でも、——道徳性の発達によつて、——それを忘れさせる程に濃かな共感性こそ、幼児保育者の人間性でなければならぬのである。



しつけの時機

波多野完治

「鉄はあついうちに打て」といいます。どんなものでも、それを仕上げるのに、時期があることをいつたものでしょう。

子どものしつけもその通りだとおもいます。時機をまちがえると、子どものしつけはうまくいきません。

お母さまたちのしつけのし方をみてみますと、二つの型があるようです。第一はておくれになつてからあわててしつけようと骨をおる人たちです。小学校の一年ぐらいでやつておかなければならないことを、小学校の三年ぐらいになつてからはじめ、そのために親も子どもも大変な苦勞をしているのをみかけます。

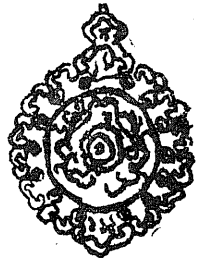
もう一つは早すぎて失敗する型です。こういうのは子どもにかまひすぎ、子どもの教育に熱心になりすぎるところからおこるようにおもわれます。小学校へ上るまえに字をおしえてみたり、本をよませてみたり、又はあん

まりキチンとしたお行儀をしこんだりするのはこの例です。こうしますと、子どもは、その仕事に対してまだ本當の「欲」が出来ていないので、うまくいかないばかりか、出来もしないつらいことをやらされる、というので、かえつて一生その仕事や勉強がきらいになつてしまします。一生音楽がきらいだつたり、後はみるのもいやだつたりする子はたいていこうして生れます。こんな風に、しつけは早すぎても、おそすぎてもいけないのですが、このように年令によつてしつけの種類と段階があるばかりでなく、時機によつてもしつけのしやすいつときとしくいつときがあるようです。

幼稚園に上るころはしつけのきまりをつけるに大変よい時機です。幼稚園に上るときをはずすと、もう今度は小学校へ上るときまでしつけの出来ないようなこともあります。しかし又、幼稚園に上りはじめると、子どもは、なにしろはじめての社会生活なので気ずかれがし、神経質になつていくときですから、一寸した言葉や叱責がひどく気になります。そのためにしつけが却つてうまくいかないということもあります。

これをさけるには、幼児の生活のしぶりをよくみて、のんびりとしつけが進むように、だんだんにするのがよいようです。

急激に無理にやる、というのは幼稚園に上るころの子どもには一番禁物のようです。



幼児と団体生活

山下俊郎

四月に新しく入園した子ども達も、五月という月に入ると園の団体生活にだいぶなれて来てはいる筈である。しかし、その団体生活はまだほんとの軌道に乗つていないとはいえない。子ども達の間には、団体生活に対する心の動きについて可なりの個人差がいちじるしい、そして、全部の子どもが同じように歩調をそろえてという具合には行つていないからである。そこで幼児と団体生活について一通りのことを見てみたいと思う。

一 子ども達の生活背景を考えること

新しく園の生活に入つて来た子ども達の背景には、それぞれの家庭がある。一軒一軒の家庭は、それぞれ異なる生活の仕方をしている。ほとんど授げやりで子どもの生活に対して

何の教育的な配慮もなして野育ちのようにして大きくなつてきた子どももいる。また、一つ一つの事情について、あれはああ、これはこうと一々こまかに気をつかつている極度に神経質な育てられ方で大きくなつてきた子どももいる。子どものすることなすことに一々大人の物差しをあてはめて事細かに干渉されながら大きくなつてきた子どももいる。子どもの気持ちをよくよく汲んでやつて、子どもの心がまつすぐにのびられるような育てられ方で育つてきた子どももいる。子どもの育て方、教育の仕方はそれぞれの家庭でそれぞれがなつていている。また、子どもの教育だけでなく、人生というものに対しての考え方、世の中というものに対する考え方、道徳に対する感じ方、宗教に対する態度などでもそれぞれの家庭はみんなそれぞれにちがつているのである。

このようにいろいろの生活の背景のちがう子どもが、みんな一応はそれぞれの生活の背景を背負いながら、しかも園という一つの共同生活の団体の中に入り込んでくるのである。いままではお家でやかましくいわれていたことが園では何ともいわれないで思う存分にできるといふ子どももある。またお家では何ともいわれなかつたのに、園ではいけませんといわれることもある。園の生活は子どもにとつての新しい世界の発見である。この新しい発見は、子どもにとつてのいろいろの問題を提供する。

入園、入学当初いつでも問題になることの一つに、言葉が悪くなつた。お行儀が悪くなつたといわれる問題がある。いままではちやんとした言葉を使つていたのに、園から品の悪い言葉を覚えてきたと、よくお母さん達が訴える。これは子どもが新しく発見したことに對する興味である。新しい共同生活の中で、自分のお家とちがう標準の中で生活してきたお友達のものに對する一つの興味が、こういつたことをさせる。ある生活からある生活へと移つて行くときに必然的に現われてくる一つの現象だといつていい。(序にいつておくとこういつたことは、大さわざしないので放つておくに限る。子どもは自分のやること、自分のいうことに對する反応を楽しんでいるのである。まわりの者が何も反応しないでないという興味はなくなるから、やめてしまうのである。)

園の団体生活は、子どもにとつての新しい生活である。そ

こにはいままで子どもの生活してきた家庭とはいろいろの面がちがう生活の原理が支配している。この生活の原理に子どもをなじませて行くことが入園当初の園のつとめである。しかも、この新しい生活になじめながらも、園の生活が楽しい生活であり、子どもにとつて安定感のゆたかな生活の場所にならなければならぬのである。このように園の生活になれるといふことは、たくまずして自然にいつのまにか流れ込んで行くことが実際には行われてきているといつていいである。しかし、その場合に一番大切なことは、いままでいろいろと述べてきたような子どもがこれまでに生活してきた生活の背景について十分に思いを致すことである。子どもが団体生活の中でいろいろと現わす行動の特徴はこのことによつて理解のかがが得られるであろう。そして、このことをさらに徹底させようと思つたら、家庭との十分の連絡をとり、家庭の十分の協力を求めることが必要であろう。めいめいの子どもの生活の背景を考えること、これが子どもと団体生活の問題を考えるのにまずなすべきことである。

二 団体生活への入り方

団体生活の問題には、一つの生活協団体としての園の規律ある生活に入るといふ問題と、単に集団生活に入るといふ問題との二つがある。いま左に考えてきたのは、この前の方の

問題に焦点をあわせて考えてみたのである。もう一つの集団生活に入り、これになじんで行くという問題について今度は考えてみよう。

小さい幼児の場合は、ほかの子ども達と一緒になつて行動し、遊び、生活するということに、おのずから成長の段階がある。この段階については、今年の一月号の本誌に「幼児ともだち」という題で書いておいたから、詳しくは一月号を参照して頂きたい。

その際にも述べたように、子どもが集団生活に入つて行くのには、独り遊び↓傍観↓並行遊び↓集団遊び（連合的遊び）↓組織的遊びという道順をとつて成長する。そしてふつうの場合、三―四才以上になると、独り遊びや傍観といつたような段階はきわめて少ない。しかし、このようにいわゆる社会的行動の発達においては、子ども間の個人差がきわめていちじるしいものがある。したがつて、大部分の子どもは、入園して来てしばらくたつとおともだちとの集団生活の中へさつさと入り込んで行くことができるのであるが、中にはそううまく行かない子どももいる。独り遊びばかりしている子どももある、傍観状態に在る子どももいるのである。このような子どもは、多くの場合にいままでの家庭生活の中で、まわりの子ども達との接触があんまりないままに育つて来た子どもである。祖母さん子、一人っ子、末っ子、異性のきょうだいはかりの中で育つた子どもなどがそうである。

したがつて、このような子どもの場合には、まずその子どもの育つた背景としての家庭を理解することが必要なのである。そしてこのような事どもの現在現わしている行動をどうやつてほかの子どもなみにしてやれるかどうかを考えてやる必要がある。

このような子どもは、わたくし達が一口に非社会的な子どもといつてゐる子どもであるが、団体生活に入れない子どもとして教師や保母にも親にも誠に扱いにくまる子どもである。こういった子どものことを次に考えてみよう。

三 集団生活に入れない子ども

わたくし達は毎年四月から五月にかけて、必ず集団生活に入れない子どもの問題について相談を持ちかけられる。

こういう子どもは、幼稚園や保育所に行くのが嫌いかという、けつして嫌いではない。園には行きたくて行きたくてたまらないのである。しかし、いよいよお家を出かけるときにはいやになつてしまうのである。そして毎朝々々出かけるときは一さわぎである。あるいは、幼稚園の門の所まではお母さんと一緒にうれしそうにやつてくる、しかし門の所までくるとお母さんにしがみついてしまつてはなれない。また、ある子どもは、幼稚園に来た自分のお部屋の入口まで来るが、中に入らない。あるいは中に入つてもお母さんの姿がみえなくなると、泣きだしてしまふ。このようにいろいろの程

度のちがう現われ方があるが、要するに園という一つの集団生活の中に中々入れないのである。

このような私たちの子どもは、さきに述べたことで分るよう一人子や末つ子、祖母さん子といった種類の子どもにも多いのが普通である。そして、こういつた子どもこそ集団生活の中に入れてやらなければならぬ子どもである。そこでこの子ども達を集団生活の中にも導き入れて楽しい園の生活をさせるようにするにはどうしたらいいかを次に考えてみよう。

わたくし達はさきに、子どもの生活の背景を考慮することが大切だといつた。このことはこのような子どもの場合にも、そしてこの場合には何よりも大切なことである。こういつた子ども達は、いままでの育つて来た様子からいつて、ほかの子ども達とあんまり交渉のなかつた子ども達である。だから子どもの集団に入れないのである。そして、これを裏からいえば、この子ども達はいままで大人や年上のひとばかりを相手にして暮してきた子ども達である。このことが考え方の出発点である。一足飛びに子どもの集団に子どもをつつ込もうとしても駄目である。家庭の中で子どもを相手にしていた大人であるお母さんや祖母さんの手から、家庭の外の園の生活の中での大人である先生の手へ、徐々に子どもを受け渡すことが第一段の仕事なのである。このためには子どもとお母さん（あるいは祖母さん）というグループに先生に加わつても

らうのである。三人が一緒に行動するという機会をできるだけたくさん作るのである。毎朝、先生に迎えに来ていただいて、お母さんも一緒に園へ出かける、という生活をつづけるそうするとしばらくたつと子どもは先生にすつかりなれてしまふ。そのなれが完全にできあがればお母さんが離れても平気になつてくるのである。わたくしは、こういつたタイプの子どもについて受けた相談の中で、わたくしの所へ相談にくるために、子どもとお母さんとそして先生という三人で、電車に乗つてよその知らない男の先生の所に行つて、小半日も先生と一緒に同じ行動をとつた、というただ一回だけの経験が、この先生とのなじみの感じを濃く作つたので、いままで絶対に口をきかなかつたその子が翌日から先生の傍へよつてくるようになり、間もなく口を利くようになったという例を一つ持つている。またある農村の小学校の先生は、このようなタイプの一年生の子どもを、毎日迎えに行つては自転車の後に乗せて無言で通うことを半年続け、ある日後をふり向いて「どうだ面白いか」と話しかけた所、それから口を利くようになったという経験を持つている。

園児の場合にははじめは母親と子どもと先生というグループで先生との親しみをまし、親しみができたら母親がぬけるということで大抵の場合はうまく行くのである。

そして、先生とすつかりなじみができると、第一段階は完全にできたわけである。園へ行つても、たとえほかのお

友達とは一緒にいられなくても、先生という一つの拠り所ができたのである。子どもには落ちつきが出てくるわけである。

このようにして第一段階ができたなら、今度はいよいよ他の子ども達との共同生活への橋渡しを先生がつとめる。元来、子どもの集団というのは、遊びあるいは遊具を媒介としてできるかそれであれば大人がつなぎになつてできるのが自然の姿なのである。先生となじみのできている子どもは、先生という道を通じてほかの子どもと結びつくよりほかに道はないのである。そこで先生は、比較のおとなしい子どもを選んで、先生も一緒になつて、子どもの仲間を作つてやる。そして一緒になつて遊び、一緒になつて行動するようにしてやるのである。この生活をしばらく続けて行けば、今後は先生がぬけても差支えなくなる。そして、今度は放つておいてもほかの子ども達と仲間になり共同生活をどんどん進めて行けるようになるのである。

ただし、ここまでの道行きはまことにゆつくりと遅々としたもので少しづつ少しづつの進歩である。あせると必ず失敗する。気永にやることが何よりも必要なのである。

「キンダーブックまつり」

日頃弊社にお寄せ下さる御厚情に感謝し、喜びとお礼の心をこめたキンダーブック祭りをこのたび左の通り催します。

日時 五月三日(日) 午後一時より四時まで

会場 共立講堂

催物

一、藤城清治先生指導
ギニョール人形劇 木馬座公演

ピロー作「赤ずきんさん」―三幕―

二、NHK歌のおばさん 安西愛子先生 独唱

三、振付舞踊

則武昭彦先生 指導

翠川淳先生 指導

賀来琢磨先生 指導

四、幻燈スライド(天然色)

シンデレラ姫

五、色彩漫画映画

ワーナーブラザース、メトロ、その他

各社の傑作漫画四巻

★キンダーブックの歌 発表

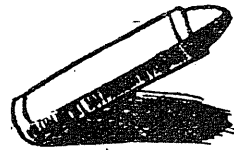
サトーハチロー先生作詞

芥川也寸志先生作曲

指導 安西愛子先生

株式会社 フレーベル館

キンダーブックまつり企画部



遊びと成長

小川 正 通

ここに紹介しようとする「遊びと成長」Play and Growth は、イギリスの女流心理学者として有名なスーサン・アイザックス Susan Isaacs 博士の著「乳幼児期」The Nursery Years (第二版一九三二年) のアメリカ版の第二章であつて乳幼児の理解のために相当役立つと思う。アメリカ版を出すにあつて、わが国にもおなじみのコロンビア大学のシャーシルド博士は、すぐれた著作だと讃辞を贈つてゐる。

一、人間の幼児と動物の仔

まず広く生物史の見地から、人間の子供を考えていく。人間の幼児と動物の仔とを比較して、第一に気がつくことは、人間の赤坊は、他の如何なる動物の仔よりも、はるかに無力 Helpless であつて、親の保護なしには、全く生存できないものであり、また子供の時期が非常に長く続くものであるとい

うことである。第二には、人間の子供は如何なる他の動物の仔よりも、はるかに大きい学習能力 Capacity for learning をもつてゐることである。もちろん哺乳類全体が、比較的固定した本能によつて、生活すると見られるような昆虫、爬虫類或は鳥等とくらべると、個人的経験により学習する大きい可能性をもつてゐる。そして同じ哺乳動物の中でも、或る動物は他のものとくらべて、一層多く教え得る teachable ものであることがわかる。一般的にいえば、無力であり、親の保護に多分に依存せねばならないものは、或る種の動物の仔であつて、しかもその保護が長期に亘るものほど、その種属の個人的成員として、知的でありまた適応的であつて、その生活行動が固定的、遺伝的であることが少ないのである。そしてこのことは、人間について最も適確にいえるのである。即ち人間において、その幼年期が非常に長く、多大な保護を必要とすることは、人間行動の固定的、生得的様式が少ないことと個人的経験により益される(また失われる)能力が極めて大きいことと緊密に結びついている。これが幼年期の生物学的意味と見るべきであり、またこれが人間文明の基礎をなしてゐる。

二、遊ぶ動物

さらに、順応的、知的動物とそうでない動物即ち哺乳類と爬虫類や魚とを比較するとき、われわれは人間の幼年期を光

輝あらしめてゐる「或るもの」に気がつくのである。それは「多く学ばざることのできる動物が多く遊ぶこともできる」

The animals which are able to learn more are also able to play more 云々の事實である。固定的遺伝的本能をもつ動物は全然遊ぶことをしない。即ち仔が初めから大人として行動するのであつて種属の本来もつてゐる知慧に何物も附加するところがない。しかるに遊ぶ動物はその遊ぶことと比例して或る種の個人的知慧を獲得できる。それは好奇心をもつ実験的な動物 the experimental animals である。仔羊もスキップをするが、それは短時間だけだし、小猫もたわむれるが、少し大きくなると余り遊ばない。ただ人間に最も近いといわれる猿類だけは、成熟に至るまで遊ぶ意志をもつてゐる点で、われわれ自身に似てゐる。しかし如何なる動物の仔でも、人間の子供のように自由に、創造的に絶えず長くは遊ばない。

要するに、遊びは学習する動物にとつて、その發展手段としての多くの意味をもつてゐることがうかがわれる。そして子供の遊びの観察者は、遊びが個人教育の自然的意味をもつてゐることを知ることができた。実に遊びは、子供の仕事であり、また子供の成長發達のための手段なのである。即ち子供の活動的な遊びは、その精神的健康のサインであり、遊びの欠除は、生得的欠陥か或は精神的疾病のサインであるといえる。

三、遊びの意味

如何なる遊びが、真に子供に對して有意味であるかを十分明らかにするためには、彼の當面する現在と環境への順応に必要な要求との關係の中に、それを見ていかなければならない。年齢の違う子供達が遊んでいるのを見てみると、それぞれその遊びを通して、熟練・力・理解力の増大に役立つようなことをやつてゐるのがわかる。例えば一才前後の幼児は、喜び繰返して音声の練習を試みるが、それはやがて言葉となるのであつて、彼の音声練習は、言葉の学習に他ならないであろう。また登つたり、跳んだり、走つたり、スキップをしたりボールを投げたりすることは、年長児の楽しんで試みる場所であるが、その反復は脚・腕・指の強さと敏捷さとの發達に役立つ。

かようにして子供は、遊びを通して、諸々の世界についての彼の知識を増進してゐる。健康な幸福な子供は、決してじつとはしていないで、絶えず自己の周囲のあらゆるものを探索してゐる。―それは口でふれることから始まり、次いで能動的な接触へと進む。また物を引きさいたり、物の内部を見ようとして試みたり、水道の蛇口を開いたり、本を棚から引きずり出したり、人形が燃えるかどうかを知るために、火の中に投込むことさえやりかねない。好奇心に充ち、なんでも試みることにしては、如何なる実験的科学家といえども、普通

の健康な活動的な子供の足下にも及ばないものである。

しかし子供の遊びがすべて、物質界の探求や新しい熟練を指向しているものとはいえないのであつて、その多くのものは、社会的なものであり、また想像界に属している。幼児は父や母になつて遊んだり、生れたての妹や巡査や兵隊となつても遊ぶ。旅行ごっこや寢起の遊びも試みる。それらは彼が大人の行為として知つてゐる一切のものに及ぶであらう。そしてそれらを通して彼は、次第に社会的順応が容易になつていく。父母となつて遊ぶ場合には、彼は父母の自分に対する態度を想像的に洞察しているのだし、また父母の言行も幾分か理解して遊んでいるわけであつて、しかもその遊びの隣間においては、父母の力と才能（父母がもつてゐると彼が考へてゐるような）とが、自分自身にも存在してゐるかのやうに感じている。さらに彼がなし得ないことや現実の生活では在りえない一切のことが、この遊びの世界では、なすこともでき、また在り得るのである。従つて遊びは、彼をして現実的要求に基づく刻々の圧迫から逃避させて、この楽しい境地へと向かわせてゐる。

四、教育としての遊びと問題解決への方向

遊びの深い意味について述べるのは、後に譲ることとして子供の遊びがその成長のあらゆる面でもつ大きな価値に關しては、以上で一応十分であらう。その価値を見出し得た親は

子供にとつて大きな味方といふべく、反対に、子供の健康のサインであるこの大きな流れ（遊び）と活動的な衝動とに抗する親は、運命的といふべきである。じつと休んでおられないこと、静かに坐つていられないこと、おいたや、内部を見ながら、絶えず「何故」と繰返し聞くこと、走つたり、登つたり、掘つたり、探究するために手がよごれ、服がさけそれでも平気でいれること。——これらは決して除き得るやうな幼年期の不幸な偶然的なものではない。かえつてそれは、人間の子供の光榮であり、彼の人間の遺産なのである。

The glory of the human child, his human heritage
またそれらの遊びは、人間の胃険心や苦心して初めて獲得される知恵を代表してゐるといえるし、同時に知識や熟練を進めていく手段でもあるわけである。

要するに、幼児が自己のスプーンを投げ落し、少し大きい子がよじ登り、マッチをつけて見たり、壁に書くこと等を喜ぶことにおいて、今やわれわれは、或る意味を理解することができるのである。そして教育者の立場からは、次のやうにいうことができる。即ち家庭では、大人の所謂生活を破壊してしまわない範囲内で、この教育的価値の高い子供の遊戯衝動を十分満足させてやらねばならない、と。もし子供が静かに坐り、一日中清潔にしているのでなければ、幸福でないと考えような大人は、子供自身に罪があるのではなく、大人の考え違ひである。またもし子供に対して、それは黒板でも

壁でもいいが、チョークで書く対象を与えないならば、そのときに利己的、妨害的なのは、大人の側であるといえる。もちろんそうはいつても大人の愉快と便利とは、子供にとつてすべて非合理的要求だというのではない。従つて大人の要求が、子供達に対して非教育的にならないように、十分工夫することが肝心である。そしてもし大人の愉快と便利とが、子供のゲーム遊びを妨げがちであることを率直に認めて、その遊びを子供の「いたすら」とけなさないようになるならば、われわれ大人が少なくとも一歩前進したといひ得るのである。

五、子供と大人

さらに、子供の一般的特色を見ていこう。もし幼児、子供の肉体と大人のそれとの比較を試みれば、非常にはつきりするのは、両者の相違が単に大きさである。それだけでなく、種々の部分の割合の相違であるということである。例えば赤坊の頭は、大人の相対的な大きさの約二倍もありながら、その脚は四分の三に過ぎないし、腕はそれより少し長いに過ぎない。従つて成長とは、全体の大きさの単なる増加でなくて、肉体の各部分の種々の増加である。そしてそれはそれ自身決して偶然なことではなくて、発達各段階における一全体としての肉体の要求と関係しているのである。例えば新生児は、ミルク以外のものを消化し得ないし、眼と耳も発達していない

ので、自己の始末ができない。そして彼は自分を保護してくれる母の腕と栄養を提供してくれる母の胸とに、全然依存している。彼の要求は何んでも満足される。といつてもそれは彼の母にすがりつき、乳を吸うことである。従つて新生児の脚は、小馬の脚のように長いことを要しないし、胎内でのように屢々組合せたままである。

そして生理的な相違も、以上のような外形上の相違に相伴うものである。例えば骨はその初め非常に軟かいが、脚が真直になり、一定の長さになつてくると、骨が次第に硬くなつてくるだけでなく、——それに肉体を真直に保つことができようになるし、また視覚、聴覚、触覚も発達してきて、一年目には歩行を可能とさせる筋肉の力が増進し、バランスもとれるようになつてくる。さらに「でんぶん」質の食物も消化し得るようになり、今や彼は従来以上の自由な活ばつた運動を求めるところの、一層大きなエネルギーの根源を獲得し始めるのである。

以上のような肉体的成長と肉体の要求との関係の事実は、明白であり理解し易い。新生児が肉やパンを消化できないからといつて、その子は病氣であると想像したり、また彼がスプーンを持ち或は歩き或は話すこと等ができないからといつて、彼を異常と考えるものはないであらう。われわれは子供がそれらのことをなし得べきであると考えることも、われわれ自身のようになさせようと強制を加えることも共に誤りで

ある。即ちわれわれは子供の現状を把握し、その現実的要求に即応するのだからなければならない。いい換えれば、われわれは子供の正常な発達の現実的な事実の上に、健康な且つ希望すべきものについてのわれわれのアイディアを立てることである。

六、精神の成長（発達）

子供の精神について、以上と同様な直接的な観察を進めると、子供と大人との精神上の相違の一般の様式が、その肉体的成長の各段階と密接に結びついていることがわかる。しかし精神の成長は、肉体的成長の場合のように、それを簡単に且つ明瞭に見ることは、中々困難である。しかも全体的について、われわれは二つの対立する方向において、誤りがちである。即ちその第一は、乳幼児が全く精神をもたず、肉体的要求のみであるかのように考え扱うことであり、第二に三才から五才に達すると、われわれ大人と同様な責任ある道德的な存在であるかのように仮定することである。われわれは、生れて二年目の幼児については、その観察力、印象のためのレディニス、親に対する感情の深さと強さとを全く低く評価し過ぎていきらがある。それに反して、話をしたり聞いたりできるようなつた幼児においては、もしわれわれが要求するならば、少なくとも外面上は、ていねいにふるまつたり、秩序を守つたり、利己的でない行為もなし得るので彼等

の能力を高く評価し過ぎて、われわれの道德的人格の基準に従つて生活もでき、大人の習慣を理解できるかのよう誤認しがちである。

恐らく両者の誤りは、言葉の幻覚 *illusion of speech* に基ずくのであろう。即ち幼児は唾にも近いから、精神をもつていないと想定し、よちよち歩きの子 *toddler* は、われわれの言葉の若干をもつているから、われわれと同様に感じ、なし得るといふことを殆んど疑わないのである。そして子供の言葉の意味するところのものが、多くの面において大人のそれと異つていふことを悟らない。しかし子供の言葉を研究するものには、それはすぐ明らかになることであるし、また幼児が言葉を学ぶときに、如何なる世界が好まれるかについてわれわれが知るならば、子供の言語の意味するところのものが明らかになる。もちろん子供の言葉は、子供の判断や推理よりも、一層その感情及び意志と緊密に結びついているものであつて、しかもすべてそれらは、その肉体的成長と連結しているのである。一体、精神的成長が同時に肉体的成長と結びついているということは、単純なことではなくて、両者は各段階において互に最も密接に結び合つていふことである。まだ離乳していない赤坊と自由に走り廻る子と、盛んに質問をする四才児と大人とは、それぞれその世界が異つていふのは当然であらう。とはいつても子供と大人との間には、多分に共通な人間自然 (性) *human nature* が存在してい

ることは疑えない。それにも拘らず、子供も大人もそれぞれ精神生活の彼自身の仕方及び特殊な要求をもつていのである。そしてわれわれの研究目的のために一層重要なことは、恐らく相似 *likenesses* を強調することよりも、相違 *differences* を理解することである。

七、子供の世界

乳幼児が好んで求める世界が如何なるものであるかについて、明瞭なアイデアを得ることが容易でないのは、それがわれわれ大人のもとの非常に違つていからである。しかし幼児についても、その語るところのものを辛棒強く聞き、また彼等を理解しようとの目的のもとに、そのなすことをよく看守るならば、われわれは彼等の怖れと怒り、当惑と喜び（凱歌）とを想像的に感じることが出来るであろう。また彼等の意志を意志し、彼等の絵を理解し、思想を考えることも可能である。しかし三才の男児が驚きながら、その親しい大人に次のようにたずねる場合、即ち

「何故に、人々が何もしなさんなといわないときには、人々は無為であるうとしないのか」

また

「人々がいおうとしないことでも、静かに質問しかけると、どうぞといわないときでも、答えてくれるのか」と。

これは小さい一例に過ぎないが、われわれは大人のマナー

の、*manners* 或はきびしい或はきままな規則が、幼児に与えるであろう当惑について、急に思い当らざるを得ない。しかしわれわれは、幼児に対してその言葉の停滞さえ直してやることができないのである。

言葉をもたない乳児の世界を十分明らかにするには、さらに厳密な一層辛棒強い研究を要するし、想像作用の飛躍をも必要とするけれども、もし、如何に乳幼児の成長が進行するものであるか、彼の困難は一体何であるか且つ如何にそれらを克服して、彼を助けるべきか等について、十分知りたいのであるならば、われわれはその取得に遇進する以外に方法はないであろう。

初等教育実験学校研究発表（文部省）

さきに文部省においては昭和二十七年年初等教育実験学校を指定して、初等教育に関する実験的研究を依頼しておつたが、このたびその研究発表会を開くこととなつた。ここに幼稚園関係について記する。

記

1. 実験指定学校 東京学芸大学附属幼稚園
2. 研究発表会場 東京学芸大学竹早分校講堂
3. 期 日 昭和二十八年五月十三日午前八時—午後四時
4. 参加者 幼稚園関係者、指導主事
5. 研究題目 幼稚園の教育課程について

幼稚園児のグループリーダー形式に就て(2)

摩 瀬 靖 正

附 記 (京都市内幼稚園児実体調査集計表)

京都市内幼稚園児に対して種々の観点より、実体調査を施行したのであるが、本論に直接関係を持つておる面を資料の一端として結果構成を示す事にする。

(1) グループ形成の条件

特に五人以上十人迄の間で自由遊びの中に形成された自然のグループを調査したのである。グループの回数 77 回行いそこに於て如何なる者がリーダーになるかを性別、グループの最高年齢、最低年齢等を調査した表が下記の通りである。凡て昭和二十七年九月・十月に施行したものである。

右の表に依ると、リーダーの性別としては男、女共にリーダーになる事が解るのであり、性の区別には関係がないのである。グループを形成した場合、男児のみ、或は女児のみがリーダーになるとは限らないのであり、幼稚園児に於ては、性の区別はないのである。年齢的に見ても、必ずしも最高年齢の幼児がリーダーになるとは限らないのであり、寧ろ中間的存在の幼児がグループのリーダーとして活躍しておることが認められたのである。

グループ形成の表 (昭和廿七年九、十月集計に依る)

人数	回数	リーダーの性別 (男)	リーダーの性別 (女)	最高最低年齢	リーダー平均年齢
5	28	20	8	6.8	4.2
6	19	12	7	6.9	4.7
7	14	6	8	6.7	4
8	6	5	1	6.2	4.5
9	5	3	2	6.2	4.9
10	5	5	0	6.5	5
合計	77	51	26	—	—

尚幼児は社会性の発達が未熟なるが故に、人数が増すと共に回数が減少して行く傾向を持つておるのである。要するに社会的行動の発達段階にある幼児は、グループを形成しても何時迄も続けられるものではなく常に流動性を有しておるのである故、形成されるグループメンバーは回数と反比例の状態を持つ特徴を有しておるのである。

る。

(2) リーダーになる幼児の性質

グループを形成する幼児の中には、必然的にリーダーなる幼児がいるのは当然の論として肯定出来るのであるが、今此處に、然らばそのリーダーには、如何なる性質の幼児がなるかということ就て、調査して見ることにする。

リーダーになる幼児の性質分布表

性質の分類	人数	百分率	性質の分類	人数	百分率
性 質 の 類 別	26	7.6%	統 一 力 有	16	4.8%
決 断 力 有	33	10%	落 着 力 有	14	4.5%
明 快 活 的	28	6.9%	発 達 表 示 力	11	3.4%
社 交 的	21	6.3%	剛 腹 有 者	8	2.4%
積 極 的	21	6.3%	情 緒 有 者	2	0.6%
創 造 力 有	38	11.5%	美 行 力	7	2.1%
自己記入カード力有	43	13%	敏 行 力	4	1.2%
各自の特徴知	21	6.3%	尊 敬 さ れ る 感	3	0.9%
世 話 好 き	18	5.4%	短 気	3	0.9%
素 直	17	5.1%	大 人 し い	2	0.6%
自 信 有					

(昭和廿七年九月、十月集計に依る)

グループを形成したその中で、自然的に発生せしリーダーの性質に就て381人の回答を得たのであるが、その結果を下記の表に現わして見ることによつて、如何なる幼児がリーダーたるべき性質を有しておるか解ると思ふのである。

此の表を見ても解る様に、種々の性質の持主がリーダーになることとが解るのであるが、表に依り百分率の大なる者がその過半数を占めておるのは当然であるが別紙の論書に依つて各項目を挙げて説明したるものに依つて明らかなる裏付けといえるのである。

扱、次に論を進めて、リーダーたる幼児の必然的に備われないはならぬ要素に就て説明等を加えておくことにする。各要素を区分的に説明して行くことにする。

(4) 知的な面

知能の面に於て、リーダー格になつておるその品等段階に就て調査したのであるが、次の如くである。

(昭和廿七年九月、十月集計に依る)

品 等 段 階	知 能 指 数	リ ー ダ ー の 知 能
最 優 (最上知)	141以上	5人
優 (上 知)	125—140	47
中の上(平均知上)	109—124	25
中 (平均知)	93—108	0
中の下(平均知下)	77—92	0
劣 (下 知)	61—76	0
最 劣 (最下の)	60以下	0

此の表を見ても解る様に、リーダーになった幼児の知能の点を見ても平均知能以上以上の幼児がリーダーになる事が解つたのである。

やはり知能の低い幼児はリーダーになる事は不可能、換言すればリーダー格としては認められないのである。

向 性 検 査 表

番号	No	男 女
姓名		
年令	年	月
所属	西山幼稚園 組	

外 向 点	
無 応 答 数	
向 性 指 数	
相 対 向 性 指 数	

〔注意〕 つぎの50組の問題は人の性質や動作をあらわしたものです。それぞれ反対した性質がAとBで一組になつていきます。自分の平常の性質や動作をよく考え、AとBとをよく比べて、どちらの方が自分によくあてはまつているかをしらべ、あてはまつているほうに○印をつけて下さい。○印ではつきりとAかBかのどちらかまつんでください。どちらもあてはまらないときはそのままにしておきなさい。

〔問題〕

1. { A—ちいさなことでも気がかかります
B—ちいさなことはあまり気にしません
 2. { A—何をするときでも早く決心がつきます
B—何をするときでもなかなか決心がつきません
 3. { A—陽気でいつもほがらかです
B—陰気で淋しい方です
 4. { A—失敗するとこりこりします
B—大ていのは失敗しても平気です
 5. { A—あまり人と話をしない方です
B—人とよくしゃべる方です
-
26. { A—人としゃべることは好きです
B—人としゃべることはあまり好きません
 27. { A—どちらからかといえば気がつかしい人間です
B—気がるな人間です
 28. { A—よく人におだてられます
B—人におだてられるようなことはありません
 29. { A—いいだしたらなかなか我がつよい方です
B—あまり我をはることはありません
 30. { A—なかなか友達が出来ません
B—すぐに友達が出来ます

6. { A—怒ったり悲しんだりするときすぐ顔に出ます
B—感情をあまり外へ出さない方です }
7. { A—何かするときはざつと考えて実行にとりかかります
B—何をするときもとやかく考えて実行に手間取ります }
8. { A—よくにぎやかにかざわぎます
B—静かな方であまりざわぎません }
9. { A—気が変らない方です
B—よく気が変わる方です }
10. { A—考えることはきらいで活動する方がすきです
B—考えることがすきで活動することはあまりすきません }
11. { A—根気がありません
B—しんぼう強い方です }
12. { A—よく理くつをいいます
B—理くつ深い方ではありません }
13. { A—決心を平気で変えることが出来ます
B—一度決心したことは中々変えられません }
14. { A—自分の持物をあまり大切にしません
B—持物を大切にします }
15. { A—呑気な方です
B—よく心配する方です }
16. { A—人と議論するときにきれにかつとなつてきます
B—議論は静かにします }
17. { A—仕事は細かいところにまで気をつけます
B—自分の仕事はざつぱな方です }
18. { A—あまり空想にふけりません
B—いろいろ空想することがたのしいです }

31. { A—自分の噂が気にかかります
B—自分の噂は気にかかりません }
32. { A—冗談をよくいいます
B—あまり冗談をいいません }
33. { A—自分の仕事を人にまかせても平気です
B—自分の仕事は自分でしないと気がすみません }
34. { A—人から指図されて仕事することはきらいです
B—人から指図されて仕事をしていても平気です }
35. { A—よく気がきく方です
B—気がきかない方です }
36. { A—物事を人に打明けない方です
B—物事を人にかくすようなことはありません }
37. { A—人にすぐ同情してしまふ方です
B—人にあまり同情しません }
38. { A—人の批評をよくする方です
B—人の批評をあまりしません }
39. { A—人の上に立つてうまくおさめることができます
B—人の上に立つてうまくおさめることはできません }
40. { A—恨はなかなか忘れることができます
B—恨むことがあつてもじきに忘れてしまいます }
41. { A—よくはずかしがる方です
B—めつたにはずかしがることはありません }
42. { A—人の意見はすなおに聞き入れられる方です
B—人の意見をあまり聞き入れられない方です }
43. { A—ひとりぼつちでいるのがすきです
B—大ぜいの人と一緒にいる方がすきです }

- 19. { A—用心深い方ではありません
B—用心深い方です
- 20. { A—自分の動作はのろのろしています
B—自分の動作はきびきびしています
- 21. { A—派手な人目につく仕事が好きです
B—人目につかない地味な仕事が好きです
- 22. { A—物事に凝ることはありません
B—何かを始めるとすぐそれに凝る方です
- 23. { A—怒り易いが直きにさめます
B—あまり怒りませんが怒るとなかなかさめます
- 24. { A—非常に綺麗好きな方です
B—きたなくでもあまり気になりません
- 25. { A—ずいぶん無駄すかひをする方です
B—無駄すかひする方ではありません

(9) 向性的な面

向性的の面に就て如何なる幼児がリーダーになるかを調査したのである。即ち向性検査用紙を配布し集計した上で、リーダーになつた幼児の向性指数を調査したのであるが、その中、指数の面に於て只で標準以上外向性の持主なる事が解つたのである。

上記の表に基き京都市内園児を調査したのであるが最低三歳二ヵ月より六歳十ヵ月最高年齢の間に於て実施したのである。人員は総計2800名(男女共)。リーダーになつた幼児は男女共凡て外向性の持主であつたのである。此の結果からみても内向性の幼児はリーダーとして認められない事實の裏付を見出したのである。(43頁に續く)

- 44. { A—世の中には自分の氣にくわなないことが多いです
B—あまり世の中に氣にくわぬことはありません
- 45. { A—人の前で平気で話ができます
B—人前では思うことがなかなかいへません
- 46. { A—どんな人でも一度は疑つてみる方です
B—他人をすぐ信用する方です
- 47. { A—人の世話をすることが好きです
B—人の世話をすることはあまり好きしません
- 48. { A—つとめて人前に出ないことにしています
B—特に人前に出ないことはありません
- 49. { A—自分と意見のちがう人につきあふことはいやです
B—意見のちがう人につきあふこと好きです
- 50. { A—けちけちしない自分の物を人によくやります
B—自分のものはなかなか人にくれてやりません

(男子)

↑	外向性	4. 180以上	超外向域	↑	外向性	4. 177以上	超外向域	
		3. 180—165				3. 176—166		
		2. 164—143				2. 155—136		
		1. 142—122				1. 135—115		
	標準	0. 121—100	正常域		標準	0. 114—95	正常域	
	内向性	1. 93—98				1. 94—75		
		2. 77—57				2. 74—54		
		3. 56—35				3. 53—34		
		4. 35以下	超内向域			4. 33以下	超内向域	
↓	内向性			↓	内向性			

(女子)



保育研究大会の

準備と処理の

記録をたどつて

高橋 壽美夫

私どものところでは去る四月二十四日から三日間第五回関東保育研究会を開催したが参会者三百数十名を得て盛況裡に所期の目的を達することが出来た。大会そのものは一般によく公表されるところであるが、この大会を産みだすためには仲々の苦心があり多数の人の協力を必要とするものがあるのでこのたび本大会までの準備とその後の処理のことについて筋みちを簡述して見たいと思う。私は終始一貫してこの仕事にたずさわつた関係で各種官庁学校団体との接衝の経緯と事務上の処理のことについて記録をたどりつつ拾ひあげて見ることにするがこのことが多少なり御参考ともなれば幸である。

一、六月三日（昭和二十六年）千葉県で行われた第四回関東保育協

議大会のバトンタッチを受ける。それ以来七カ月は個々の間に來るべき大会の時機構想について話合はあつたが計画的のものはなかつた。

二、一月（昭和二十七年）第五回関東保育大会を群馬県で引受けはしたものの会場地は具体的にきまつていない。四五月頃高崎市に子ども博が開催されることになつたのでここにするこの世論が高まつて來た。

× 日、高崎市学務課長と面談、高崎市でやるかどうかは現場である市内の幼稚園保育園職員の意向を尊重してきめたいといつておられた。

× 日、松井氏と共に高崎市内幼稚園保育園及保育関係者に面接する。大会に経験がないというので断りがあつたが強硬に

たのんで大体内意を得る。

- × 日、副会長山端氏と共に高崎市長助役学務課長厚生課及長市会議長を歴訪して次のことを陳情し懇談する。

(一)会場を高崎市とすること

(二)経費分担のこと

(三)共同主催とすること

これにはあらかじめ陳情書をつくりこれに行事日程と経費予算の概要を添付して提出する。

三、二月

- × 日、市当局と対談第三日にして初めて会場地引受と共催方の確答を得た。分担金については未定

- × 日、第一回の準備会を会場地として内定の市立第二幼稚園に開く。参加者は保育会役員その他、県教委、県児童課企画室市学務課厚生課並市内幼稚園保育園の代表者凡そ三十名で次のことを打合せもる。

(一)委員の構成

(二)会場地を高崎市とすることの確認

(三)行事日程

(四)予算の概要

- × 日、山端副会長来訪、県社会福祉協議会の協力方申入れとこの対策について懇談する。

- × 日、志村会長山端副会長に同伴して県民生部部長及高崎市長助役学務課長厚生課長を訪問する。

- × 日、山端副会長来訪、日保連や関係連との関係について開催日取のことを話合う。県社会福祉協議会に対し本会へ協力

後援方の依頼書を提出することをきめる。

- × 日、前回開催地千葉県成田町幼稚園に出張して運営の概況につきつぶさに調査する。

- × 日、日保連事務所を東京都芝区増上寺明德幼稚園に訪れて日保連の組織や関係連との関係につき懇談し更に東京都保育会長鎌田しん氏に会つて大会に対する所感をきく。

- × 日、県社会福祉協議会を訪問し協力後援の文書を手渡しして来る。

- × 日、高崎市学務課長厚生課長を訪問して経費分担協力方を依頼する。

同市旅館業組合代表を訪問して宿泊料その他について調査する。

- × 日、各都県代表者を確かめるため問合せ状を発送する。

大会係員一覧表をつくる。

- × 日、大会の要項特に行事日程の細案をつくる。

- × 日、大会案内状の文案をつくる。

- × 日、第二宿泊地伊香保町に出張して同町幼稚園長中曾根氏、同町長代理観光協会長に面接し協力方を依頼する。

- × 日、各都県保育会代表者全員の受理をする。

四、三月

- × 日、東京都代表鎌田氏より日保連理事會が四月二十七日開催されるので日取変更方の要あることと各都県代表者會を東京に開催するよう申入あり。
- × 日、第二回準備會開催方通知狀を發する。
- × 日、第二回準備會を開き次のことについて打合せする。
- × 日、第二回準備會を開き次のことについて打合せする。
 (一) 研究大會要項について——教育的効果をより大きくするために大會の名称従来の協議大會を研究大會とし研究發表討議講演の時間を成るべく多くするようつとめる。
 (二) 案内狀の細案について
 (三) 係員一覽表の吟味
 (四) 各都県代表者會開催の時機
 (五) 永年勤続者の表彰範圍
- × 日、二十年以上勤続者調査方依頼書の發送
- × 日、研究發表協議題期日等のことについて各都県代表者に依頼狀を發送する。
- × 日、大會案内狀及表彰狀印刷方註文
- × 日、大會案内狀の發送——県内各施設官庁各都県代表(各部一括) 県社福協議會(關東地区一括)
- × 日、県保育會理事會開催
- × 日、日程、關係連規約、乗物時刻表を印刷所に廻す
- × 日、文部大臣及厚生大臣に対し係官の派遣方申請書を發送する。

五、四月

- × 日、高崎市こども博を觀覽し下調査をする。
- × 日、各都県代表者會に招待すべき県内關係者に案内狀を發送する。
- × 日、文部省厚生省より係官の派遣方を確実にするため兩者を訪問する。
- × 日、小見、鈴木の兩氏フレール館高崎代理店を訪れ金一封と表彰用花瓶十數個の寄付を受入れる。
- × 日、第三回準備會を開催する。
 (一) 予算案の吟味
 (二) 係毎の細部準備
 (三) 被表彰者選考
 (四) 本県提出協議題
 (五) 本県の研究發表者
 (六) 日程と關連する係
 (七) 参加者の中間報告
 (八) 次回準備會の時機
- × 日、各都県代表者への参加者及被表彰者に対する案内狀を發送する。
 中曾根氏來訪、伊香保に於ける宿泊及晚餐會觀光のことについて懇談する。
- 日程大書講演題原稿を會場地に郵送する。群馬バスに対し貸切バス二台を註文する。
- × 日、き章を註文する。高崎市記者室に対し案内狀を發送する
 県内各施設の中参加申込みのないところに催促する。
- × 日、経過報告書をつくる。太田副會長経費分担金のことを出願する。
- × 日、日程の細部につき検討する。

経費分担手続きのため出果する。

× ことも博入場料割引方につき主催者に交渉する。参加申込者の現在数を確認する（大会五日以前であるのに大会当日の四割）

× 日、会計報告の原案をつくる。

× 係員総会当日の打合事項を吟味し印刷する。

× 日、参加申込者名簿を一応完成する。

× 宿泊係主任に対し参加者名簿を送る。

× 日、伊香保観光宿泊のため同地に出張伊香保町に於ける協力

者代表に対し案内状を送送する。

× 日（大会前々日）係員総会（凡そ百名）を開く——総会、各

係会、報告連絡総会

× 日（前日）各係毎に準備する。

× 日、大会第一日開会式研究協議講演代表者会。

× 日、大会第二日研究発表及び討議会計報告閉会式——レクリ

エーションことも博観覧。

× 日、大会第三日榛名伊香保観光。

× 日、会場地に於て庶務会計処理をする。

× 日、志村会長、太田山端兩副会長と共に挨拶廻りをする（県

及び教委、県社会福祉協議会、高崎市役所、同商工会議所

市立幼稚園）

× 日、各都県代表、研究発表者、県内各施設に対し挨拶状を発

送する。

六、六月

× 日、県、県教委、高崎市より分担金を受領する（教委六月九

日、高崎市同七日、県六月十一日）

× 日、支払事務を完了し会計報告書を作製する。

× 日、会計報告及び反省会開催通知状を送送する。

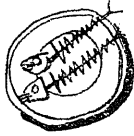
× 日、反省会を催す（準備会構成委員三十名）

以上紙面の都合上筋みちだけにとどまったことを遺憾に思
うが具体的なものについて御問あればお答をいたしたい。

（群馬県保育会幹事）

生理慾望の教育

— (3) —



加藤常吉

飢えの教育 (2)

四、生来的反應とその變化

生理慾望、そのうちでもとくに「飢え」の教育を考える場合、これが教育のむすびつきをもつ最も大きな根拠はこの生来的反應の變化である。

(一) 生来的反應

先ず、生来的反應について考えよう。生来的反應とは、生理慾望を遂行するのに、子供に生れつきそなわつていてこれに応じられる能力をさすものである。これを本項の研究の対象である「飢え」について考えてみよう。

乳をのむ運動 生れたばかりの飢えた赤子の唇に、乳房をあてがうならば赤子はどのような運動をおこすであろうか。それは、言うまでもなく口を開いて乳をのまうとする運動をおこす。この乳房をあてがわれて口をあけて乳をのもうとする運動とは、生来そなわつたものである。これに似た運動に、

乳首にすいつく運動がある。これは舌を乳首にびつたりとあてておこすはたきである。また、これを吸う運動がある。これは言うまでもなく、すいついた運動の後にくるもので、舌とほゝとをもつて乳首をすいつく運動をとつたものである。その後には、のみ込む運動がある。これは口中にある乳をほゝと舌とのはたらきによつて、食道におくり込むものである。このように、乳児の哺乳にみられる運動には、乳をのむためのさまざまの生来的反應がみられる。

哺乳動物共通のもの ところが、乳をのむための口をあけ、舌ですいつく舌とほゝですいつ、またほゝと舌でのみ込む運動とは、人間がもつておなじように、他の凡ての哺乳動物にもそなわつておられることである。舌ですいつく運動を観察しておどろくことは、人間の赤子と他の哺乳動物の仔の間で、寸分ちがわれない動作をとつておることである。自然が生物にそなえた

はたらしきは、不思議といわなければならぬ。

教育を必要としない 次に、生来的反応についてみられる特ちよりは、教育を必要としないという点である。つまり、これはすこしも学習を要せず遂行できる性質のものであることを意味する。

(二) 生来的反応から変化したもの 生理慾望の教育が理論的に成りたつ根拠として、この生来的反応から変化したものは、最も重要な要素としてあげられる。且つ、ブラッツ教授が最も得意として説くところである。

それならば、生来的反応の变化したものが教育との関わりをもつとは、どのような観点にたつてのことであろうか。ブラッツ教授はこれに対して、生理学的、心理学的、また社会的理由をあげている。

生理的理由 それには先ず生理的理由があげられる。人間の身体である有機体の發育は、時々刻々なされている

もので、それは不思議な發展の過程をたどるものといえる。これを換言すれば、生理機能が成熟するということである。飢えを生来的反応でみたしていた赤子が、日がたつにしたがつて、その生理機能に大きな変化がくる。すなわち子供が七、八ヶ月になると、歯が生えてくる。これは明らかに、子供が發育するにしたがつて、活動もはげしくなる。栄養を乳以上にゆたかにたもつている固形の食べものにたよつて、生活することが必要になつてきていることを意味するものである。したがつて、乳にたよつて生活していた時代にはみられない、咀嚼やくの運動のおこつてくることなども、生理機能の成熟にあわせてみられる行動の変化としてあげられる。

飢えをみたすのに関わりのある他の生理機能の發達として、とりあげられるものに「感覺」がある。このうちでも味覚は大きなものとしてあげられる。そして、これはまた教育効果を期待さ

れるものとして、大きくとり上げられるものである。味覚の生理機能の發達は非常に複雑している。味覚は口中の粘膜上皮のうちにある味蕾でおこるものである。正確にいうと、これは輪かくよう乳頭、葉状乳頭、きのこ状乳頭にさんざん在している。その外硬口がい、のど、扁桃腺、などにいくらか散在している。味にはすでに今日知られているように、からさ、甘さ、すっぱさにかさなどの四種があげられるが、これらの味覚をおこす位置はいくらかづゝ異つている。たとえば、甘い味は舌の先よりはもの方が、また、にがさはもとよりは先の方が多く感ずるようになる。

味覚は、子供が満一ヶ年頃になると急に發達してくる。したがつて、食べ物のもち味を明らかに識別するようになる。教育面から大切なことは、この時期から、子供にたべものゝもつ味をよく味わさせることである。とくにこの点を、生理慾望の教育が主張しよ

うとする理由はこうである。生理慾望は子供にとつて生活の大部分を占めているだけに、子供の精神的はたらきかけの大きいことも亦事実である。空腹のとき、満一才位の子供は、目ざめかけてきている味覚を十二分にはたらかせて、食べものにはたらきかけをおこすものである。このとき、食べものから与える味の刺激は、そのまゝ子供の感覚を活動させることになる。ゆえに子供の知能をよりよく發達させるためには、刺激を明瞭に誘導することが必要である。この教育効果を高めるために、セント・チオーチ・スクールでは、食べもの自体に、またその指導に特別な工夫が払われている。すなわち

- 一、食べものには、なるべく調味料を用いず、食べもの自体がもつ味を子供にあじあわせること。
- 一、同時期に多様な食べものを口にはべらさせないこと

である。

心理的理由 生来的反応によつて、

飢えの慾望をみたしていたときは、行動がすべて無意的におこなわれていたこれを哺乳についていえば、唇にふれ乳首の刺激に対して、反射的に口を開いたもので、意識というものは、全くはたらいではおらなかつた。けれども齒のはえてくる時代になると、子供には不完全ながら意志が目ばえてきて、行動を意志によつてとるようになる。つまり、この時代になると子供の行動が有意的になるということである。これは心理的にみて大きな変化であるといわなければならぬ。子供は自らの意志をもつて、行動の前にたゞなければならぬ。また、自らの選択によつて、どのような行動をとるかを決めてゆかなければならなくなる。そして、子供が二、三年になると、おぼつかないながら、判断力も目ばえてくる。一つの自分のとつた行動の結果が、どのようになるかの想像―ときに、経験の結果から―がつくようになる。被教育者の考える、あるいは自主的教育の芽

生えとは、この時期にあるのである。そこで、これを飢えの慾望について具体的にいえば、子供は

- 一、なぜ、肉や魚ばかりを、また人參を嫌つてはならないか、それは保健のために不可避的条件となるから
- 一、なぜ、野菜や肉を一しよにほおはつて食べてはならないか、それは個々の食べものももつ味をあじあうことができないから

- 一、なぜ、手づかみをやめて、匙か箸で食べなければならぬか、それは社会人になるための生活秩序また法則を学ぶための第一歩となるから

などの理由を解すことができるようになる。この時期こそ、民主社会に住む人間が各自の人格を認められ、且つ奪はれ、各自が社会に在つて各自の人格の名にかけて、責任ある行動をとつてゆかれる能力の芽ばえるときに相当するといえる。ブラツツはこの頃を、自己の節制の可能な時期であると説いている。つまり、それが他人から注意さ

れることにせよ、それに対して自分自らが責任者の位置に立つて、是正してゆくのに可能な時期といえる。他の言葉で表現するならば、民主社会に住む者が、自己の責任に於て行動をとつてゆく能力をやしなうことの出来る時期といえる。生理慾望の教育はすでに、この時期をとらえて、民主社会に住む者の責任観をやしなうものである。ゆえに、前述したセント・デオーズスクールでは、子供の社会的不適応行為を是正するのに、先ず、反省をうながす方法をもちいる。たとえば、食事をせずに遊んでいる子供に対して「××ちゃんのおべものはどうなつていいる？」或は「みんなは、今食卓でなにをしているか見てごらんなさい」というように。

社会的理由 生来的反応の变化したものととして、生理慾望の教育が可能であるとの大きな理由に、社会的意味合があげられる。生理慾望のリズムの法則の項で、すでに述べたように、生理

慾望が調整される場とは、外でもない人間の生活環境であり、それは人間社会を意味する。この人間社会とは、言うまでもなく人と人とが交わりのおこなうところで、そこには、各人を幸福にするためのさまざまの定めとなつていゝるものがある。この定めは、その社会に生活する者である限り、守らなければならぬことは言うまでもない。これを飢えの慾望についていえば、以下のような実例をあげることができ

「なぜ、食卓をよごして食べてはならないか」それは、他人が不快を感じるから

「なぜ、さわぎたててはならないか」それは、他人に迷惑をかけるから

「なぜ、食事の順序をみだして食べてはならないか（主食をとらないでデザートを先に要求するように）」それは、定つた秩序をみだして、我慾を通すことになるから。

それならば、生理慾望で、社会面がとり上げようとする教育のねらいは何かということが考えられる。これに対する答で重要な点は、生理慾望にもなる社会面の生活行動を発達させるといゝのが、第一義のものであるのではない。むしろ、それは第二義的なもので、第一義的なものは、社会面の生活様式を通して、将来、子供が成長して社会に臨んだあかつき、そこで当面する社会生活のさまざまの秩序や法則を遂行できる能力を早くからやしなわせるのにあるといふわけである。

本誌の読者の仕事の対象が、おそろしく幼児期の子供たちであるのにちがいない。したがつて、児童、青年、大人の社会的不適応行為に接する機会が少ないことであると思う。人生のこれらの時期にみられる社会的不適応行為、たとえば、公衆道徳がまもれなかつたり、他人に迷惑をかけたり、独善的であつたりの行動を敢てする人たちの、私的な食生活の行動には、共通的に法

則をみだしてあるものを発見する。このような事実から判断して、幼い時代から秩序をまもる能力をやしなうことが、どんなに大切であるかを考えさせられる。

獨立の精神を 生理慾望の生活を通して、もとめられる他の教育効果は、子供の獨立の精神をやしなうということである。これを飢えの慾望について言えば、子供はなぜ母親にたよつて食べてはならないであらうか、それは獨立の生活態度を早くからやしなうためである。ブラツツの食事の行動の指導には、上手に或は手際よく食べるということには、余り重きをおいておらない。ブラツツに言わせるならば、これは子供の手、または指の筋の運動が發達するならば必然に解決するものであると。それより遙に大切なことは、如何にして子供自らが、自らの力を十分に發揮して食べることができるかにある。これは、何を意味しているかというならば、最初保護者にたよつてい

た生活が、徐々に自らの力だけで生きてゆかれることをいおうとするものである。子供の精神的獨立はこのように生活行動が自らの手で確立してはじめて得られる。

学習が興味多く それならば、ブラツツは子供の食事の行動が發達することを望んでおらないかというに、決してそうではない。これについては、彼は彼一流の明確な理論をもつている学者といえる。彼によれば、それは、たゞ外部から、行動のもととなる筋の發達をもとめることは不合理である。食事の行動が發達するのに、より有効でより大切なことは、子供がどうしたら自らよろこんで筋をうごかすようになるかを考えてやらなければならず、むしろ指導の要点はこゝにあると。それには、子供が自ら興味をおぼえて行動をおこすように仕向けることが大切である。つまり、子供自らが行動に興味をおぼえるならば、それが必然に筋を正しい型でうごかし、これに基

いた行動をおこしてゆくというのである。興味は、行動の基である筋の運動を支配すると説くところが、如何にも生理學者の理論として、関心多く聞くことができる。

セント デオーチ スクールの指導
そこで、飢えの慾望の教育を、前述のセント デオーチ スクールではどんな風におこなつておるのであらうか、この實際の面をながめたい。

まず、これについてあげたい点は、子供の飢えの慾望が、食事についての関心をもたせ、且つこれが行動を起すというたてまえから、食事についての一定の法則が定められてある以上、大人の干渉を極度にさげられている。大人の干渉が極度にさげられている代りに、食事の法則、また禁じられていることは前以て子供に了解されている。

法則 食事の時間は最大限四〇分。フオーク、ナイフ、スプーンの正しい使い方。主用食が終つてから、デザートコースに入る。子供の食慾に応じて

お給仕される食物の量はちがつているが（肉や魚の量は不動であるが、野菜は欲するだけ、少量づゝ何回でもお給仕される）必ず皿をきれいにする。

禁じられていること 行動がぐずぐずしている。食べものや食器、器具で遊んでいる。お話をする。さわがしくする。遊び廻る。食べものを口に入れてたまたみでのみ込まない。主用食を食べ終つていないのに、デザートを欲しがらる。食べものを拒む。食べものをながめていだけ。泣き出すなどである。

年少組（二才—三才）の食堂の記録
この記録は、子供の筋の動き方と行動の適応状態からながめた食堂の特定の手順の学習振りを示すものである。筋の動き方がどんな風に発達してゆくかは、子供が毎日行動をとつてゆく都度それがどんな風に効果があがつたかの状態によつて明かとなるわけである。行動の適応は子供の非協力的態度また大人からの催促の度数の減つたことによつて判るわけである。

記録の方法は各々の子供について、十五日間を一単位とし、効果のあがり状態をながめようとして計画されたものである。

食事のお給仕—カウンターから食卓に皿（三度或はそれ以上）を運び、食事がすめば、デザートのお給仕—（最高三度）それをまたもとに運ぶ能力を示すもの記録は効果があがつたか大人の助けをかりたかを明かにしている。

皿をきれいにする—（四段階の仕事）各段階の能力を示すもので、記録は効果があがつたか、大人の助けをかりたかを明かにしている。すでに読者も気づいたことゝ思うが

年齢が二才余の子供にとつて、各々がフォークとナイフをとり、盆にそれらをのせ、カウンターの前にすゝんで、そこで食べものを盛つた重い皿をのせて、間違なく食卓に運ぶ仕事がいかに容易でないか、子供たちの学習の度合を想像することができる。

左にかゝげたものは、セント、デザート、スクールで実際に用いている子供の食事の生活行動の記録である。この記録をながめて読者も気づくようにわすか最初の十五日間のものであるが教育の効果が徐々にあがつてきていることは注目し得るといえる。

幼稚園のための指導書（音楽リズム）

文部省編修

B5版 七二頁 厚ボール表紙上製本

明治図書出版株式会社発行

幼児に対する音楽リズム指導の目標とその具体的な方法及び材料について音楽リズム専門の諸先生方が種々検討なされ幼児保育の振興の為出版されたものであります。

フレーベル館に於てお取扱い致して居ります。

年少組 食堂の生活行動の記録

子供の名 _____ # 121a

日	附																			
1. 食事の給仕	(1)	v d	a s	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
		v d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
2. デザートの給仕	(1)	v d	a s	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
		v d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
	(2)	v d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
		v d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
	3	v d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
		v d	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
3. 皿をとり	る	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
		a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
4. 皿を食卓にのせる	る	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
		a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
5. 皿を食卓にはこぶ	る	a s	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
		a s	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e	e
6. 皿をおくべき位置におく	る	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
		a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
7. ナイフをおくべき位置におく	る	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s
		a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s	a s

記入の記号
 口頭で指図をする v d
 結果がよい e
 大人の手伝 a s
 結果がよくない i n
 併この子供の年齢は二年六カ月（入学して最初の15日間の記録）
 促してやる u
 非協力 n n c o

教育實際指導研究會

基礎能力の伸長と教材教具

主催 兒童教育研究會

(お茶の水女子大学文教育学部附屬小学校内)

幼兒教育研究會

(お茶の水女子大学文教育学部附屬幼稚園内)

協讀 教育研究室

(お茶の水女子大学教育学部内)

期日 昭和二十八年六月四、五、六日

講演及発表

講演

教具の社会的背景
お茶の水女子大学助教授 吉田 昇

基礎能力の伸長とその限界
お茶の水女子大学助教授 松村 康平

幻灯利用の手引
文部事務官 坂本 越郎

教育社会学より見たる基礎能力
お茶の水女子大学助教授 周 郷博

研究討議會
司會 園長 及川 ふみ

指導會
助教授 松村 康平

發表

教材心理学とテレビジョン教育
お茶の水女子大学助教授 波多野 完治

リズムにおける基礎能力の伸長と教材
附屬幼稚園教諭 堀合 文子

幼兒の遊びの体育的考察
村田 修子

製作における基礎能力
及川 ふみ

附屬幼稚園園長 石田 佐八馬

附屬小学校教員 加藤 康順

富田 靜子

宮地 忠雄

園長 及川 ふみ

助教授 牛島 義友

助教授 平井 信義

助教授 松村 康平

昭和 28 年度 実際指導研究会 計畫

展 示

〔申 込〕

保育用品及び年令別による玩具の展示などあり

(2) 申込場所 幼児教育研究会

東京都文京区大塚町三三

お茶水女子大学文教教育学部附属幼稚園内

(1) 會 費

一日だけ参加
二日間参加
三日間参加

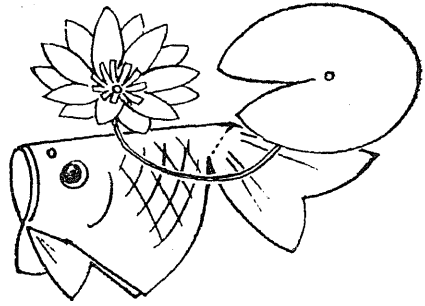
一五〇〇円
二五〇〇円
三〇〇〇円

(3) 期 限 五日末日まで〔当日も受付けます〕

(會費は当日お払い下さい)

6月6日(土)			6月5日(金)			6月4日(木)			日 時間
幼稚園	講 堂	体育館	授 業	講 堂	体育館	幼稚園	講 堂	体育館	
全校公開授業				⑧授業	⑤授業	校長あいさつ			8.30 9.00
研究会案内			研究会案内			研究会案内			9.20
幼稚園の諸問題について の研究討議会	⑫授業	⑪授業	研究指導の実際	⑨授業	⑥授業	三才児、四才児、五才児 の実際指導	③授業	①授業	10.00
	⑤発表			⑩授業	⑦授業		④授業	②授業	10.20
講(五) (波多野) 演			講(三) (坂本) 演			講(一) (吉田) 演			11.00
屋 食 (リシヨエ)			屋 食 (リシヨエ)			屋 食 (リシヨエ)			11.10
全体 協議会			⑬発表 (及川)	③発表	①発表	④発表 (期合)	②発表	①発表	1.00
閉会のあいさつ			⑭発表 (船池)	④発表	②発表	⑤発表 (村田)	②発表	②発表	1.30
			講(四) (岡郷) 演			講(二) (松村) 演			2.00
			研究 協議会	研究 協議会	研究 協議会	研究 協議会	研究 協議会	研究 協議会	3.00
									4.00

たのしい あしごこ



(きんぎよ・すいれん)

及 川 ふ み

六月頃の幼稚園や保育園は、幼児が集団生活にもなれて来て、幼児たちの園内のすべての生活が気分的にもおちつきがあり、幼児自身の内にある力を外へ、気安く出せる様子が見出される様になつてくる。

園庭に備えてある運動具の使用の状態にも砂場の遊びにも、幼児が各自それぞれの工夫によつて、興味の満足を求めて遊ぶ段階に入つて来る。

この段階の遊びは、室内での種々のものにもあらわれていることに心づかなくてはならない。そしてこの段階に入つての適切な指導ということも同時に考えるべきである。

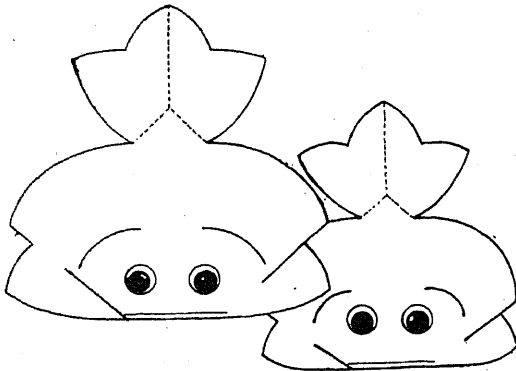
その一例を製作について試してみると、幼児自身で種々の形をかきあらわしその形をきり取つて、これを色紙にはつて一つの作品とするのが容易に出来る、楽しい遊びとしてよるこんで製作にはいることが出来る。これが少しつづくとさらに、そのものをつくる興味を持続するためにも、又興味をいやが上にも増強するためにも、それ以上の一つの段階への指導を考えらるべきである。

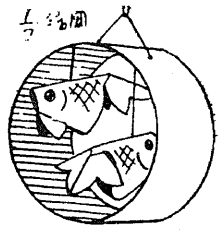
花をきりぬき、蝶をきりぬくことが容易に出来る、それは多くの場合平面のものが多い。この平面的なものだけで幼児たちは決して満足しているのではない。ただ自分自身の

能力だけでは力一ぱいのものであるというにすぎない。それ以上のものを求めている。それに対して満されるところがなければならぬ。この点指導の効くところである。幼児たちが求めてかなわないところは何であるかを指導者は洞察しなければならぬことである。

幼児たちによつてつくられた平面的のものを、それから出発してこれを立体的にし、或

1/3縮小





これは活動的のものとして、幼児たちのおもちゃとして満足させるのには如何なる方法が考えられるであろうか。

1-2 縮圖
 幼児のつくつた平面的な金魚を基本としてそれを立体的のものへの誘導として、金魚の背を紙の輪の部分にかくとか、或は裏表二枚の金魚を作るとかによつて簡易な立体感の表現が出来る。

次はこの立体感のある金魚を、さらにおもちゃとしてこれから如何に進展するかということである。

遊びの進みの一つはこの金魚を金魚鉢の金魚として遊ぶことであり、又一つは、金魚つりの遊びに使うことにも出来る。如何様な金魚鉢にするかは、それこそ、その幼児の能力の状態、材料の都合などによつて、幼児自身の工夫と、指導者のたすけによつて作られるのである。一組の幼児たちが一様の金魚鉢になつて友達と同じものを作るよこびを満足させることも一方法でもあるし、又、各自が

それぞれ異つた材料によつて、異つた鉢の出来ることも勿論のぞましい。要は一つの型にはまつてしまわないことである。

製作の指導の一つの別のあり方は、大人が幼児の適度を十分に理解して、よき形を簡易な方法によつて作れるものを与えることである。たのしいおしごとはすべてその意味において案じられたものであるが、金魚などもその一つである。大人の意図にはよるがその中にも、部分的には各自をどこかに現わす余裕をのこしておくことを忘れてはならない。

大小二つの金魚はそれぞれ好める色にぬつて、きりはなし胸ひれの部分の切りこみを組み合せるのである。

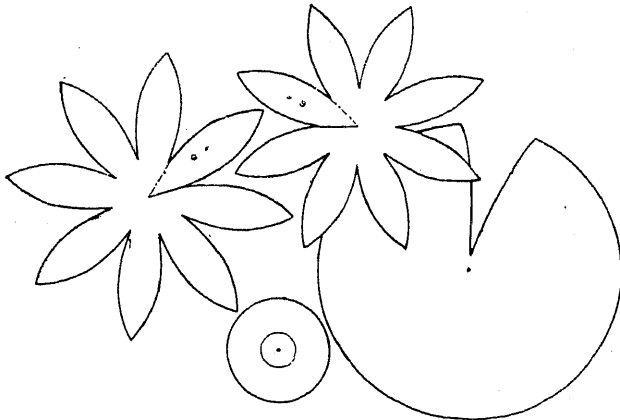
水蓮

これはクレオンを十分にぬつて、水に浮かせて遊ぶものとして取扱つてみたい。

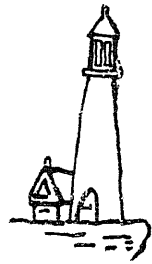
花びらの「のり」の部分一ひらだけは花びらの重るところであるからそこをのぞいては黄色か、桃色の美しいクレオンを花びらの裏表に十分にぬつておく。

葉も花びら同様に裏表にクレオンを十分にぬつておく。紙の包組のみどり色のものにやかりクレオンをぬつて、黄色の心、花の小、

つぎに花の太を通して結び目を作つて、組を二〇センチ位の間において葉の裏から表え通してとめておく。水蓮は作り終れば水鉢の中にのせて、花の浮くのを実験させるとよい。



1-3 縮圖



懐しい先生方へ

—津守真先生からの便り—

及川先生始め、幼稚園の先生方、すっかりごぶさたしている中に、一年以上もたつてしまいました。誠に光陰矢の如しとはよくも云つたものだと思います。日本の幼稚園のこと、幼児の教育とキンダーブックを通して拝見していつもなつかしく思っております。あの藤棚、岡のある庭、風通しのよい、陽射のよい園舎、アメリカの幼稚園、いや、北国ミネソタの幼稚園には、いつも日本の幼稚園を自慢しています。

アメリカの幼稚園の先生はとても静かでその点は大へん気持よく感ぜられます。ミネソタ大学の幼稚園はどちらかと云うと、オーソドックスな方でしよう。子供達はとても秩序的で、日本の幼稚園の和やかな雰囲気はともなつかしく思い出します。大学の先生達はしめつらをして机と本にかじりついています。

子供達はかわい、ですね。幼稚園に入ったとたんには、一寸ぎごちなく感じて、腰をおろしてしゃべっている中につきり仲好しになつてしまします。

キンダーブックはこの大学の幼稚園では、もう大有名です。アメリカにもこういう良い絵本がほしいものだと先生達が云っています。

アメリカの幼稚園にないものは、幼稚園の入学難でしょう。日本はどこも生存競争が激しいのですね。

堀合先生のカリキュラムいつも誌上でたのしく読んでいます。社会が異り、風俗習慣、歴史伝統が異れば、自然、保育案も違つてこなければなりません。日本の子供達のたのしいお遊びを是非一度、アメリカの幼稚園の先生に見てもらいたいものだと思つています。

ミス、ヘドラーは、是非日本の幼稚園についてみたいといつています。この方は、こちらの及川先生のような方で、よく話をしますが、大変幼稚園教育に熱心です。主任保姆の人は数年前にこの大学で人種問題と子供の教育に関連して、学位を

とつた人で、物静かな良い人です。この幼稚園にはニグロの子供も、日本人、支那人の子供、メキシコ人の子供もいます。そういう点ではミネアポリスは、大変、進歩的な良い考えをもつた都市です。アメリカも他の州では、なかくこうはいきません。

又私の二度目のミネアポリスの春がめぐつて来ようとしています。そうして、また夏がくれば私はなつかしい日本にかえることが出来るでしょう。ひぐらしのなく夏の夕べ、うだるように暑くて蟬のこえがじん／＼と身にしみ込むような東京の夏の日盛りの感覚を心なつかしく思い浮べております。美しく、興趣深い自然に恵まれ、和やかな、豊かな伝統をもつた土地に生れ、よい先生方、よい親をもつた日本の存供達は、幸福な子供達と云えましょう

大変ごぶさた致しましたので、御無音御詫びかたく筆をとりました。くれ／＼も幼稚園の先生方によろしくお伝え下さいませ。今なつかしく一人一人の先生方の顔を思い浮べております。めがねをかけた菊地先生、堀合先生体育科から来られた静かな先生、背の高いリンゴの様な顔をした先生、三年保育の子供達と、一生けんめいけんかをしておられた新しい先生も、もう本当の先生になられたのでしようね。記憶が少しもろくして来たところをみますと、私が皆様とお別れしてから随分時がたつたようです。私はつい一週間許り前にお別れしたように思われますが、それから、いつもゆつたりとした営みをつづけておられる重鎮及川先生も、相変らずのこと、お察し致します。どうぞ皆様くれ／＼も御自愛の上、日本の良い子供達のためにお伺らき下さいます様、心からお祈り申し上げます。

一九五三年三月十五日

及川先生始め幼稚園諸先生方へ

津 守 真 揮

この手紙は津守先生から及川先生に宛てて送られたもので、それを、この「幼児の教育」に載せさせていたゞくことは、及川先生の監修部に御容赦下さいました御好意による理由です。(編集部)



六月の幼稚園

六月の保育

幼稚園……堀合文子
 保育所……

今月は、鈴木先生が非常に多忙、且つお体の都合により、寝念なから、今月号の先生の欄は休ませていただきます。(編集班)

堀合文子

<p>年 少 組</p>	<p>主 題</p> <p>○時計</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計について話合う ・時計の話を聞く ・時計を二種類位製作でつくる ・時の記念日を前にして年少組だからあまりくわしい事は必要ないが仕事でたのしく時計をつくつたりして時計の必要性や時の大事な事も少し知る程度でよい。 ・前月の誘導保育も六月にかかってくるからそれと共に軽く主題を扱いたい。
<p>年 長 組</p>	<p>○時計やさん</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前月からの誘導保育もあるのでそれに併せてゆく程度の時計やさんをつくる ・時計についての話合い ・時計屋やさんを見学にゆく ・近くの時計やさんにどんな時計があるか見学にゆく ・時計の種類をあげる ・時計にちなむお話を聞く ・時計をつくる

<p>○雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨についての話し合い ・梅雨の間の約束をする ・雨のお絵かきをしている(自由) ・雨にちなむお話を聞く ・雨のリズム遊びをする <p>○ままごと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段の生活に自然と投込まれてくる遊びだが、梅雨時室内遊びの多い時こちらよりの計画としてままごと遊びの指導をする ・ままごとを一緒にしてあげる(又は入れてもらう) ・ままごと道具又は御馳走を製作で作る ・ままごとと他の遊びへ発展、関連させて遊ぶ。 <p>例えば男の人達が電車ごっこしていればそれを利用するかお菓子やさんや、八百やさんが小さく出来てくるとか、そこに部屋全体が小さな一つの社会が出来てくるので、そこまで誘導してゆきたい。</p>	<p>お話</p> <ul style="list-style-type: none"> ○こぢりんじいさん ○猿と玉ねぎ ○雨もり ○赤いめんどり ○人形芝居 ○紙芝居
<p>○雨</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時計の売買をして遊ぶ <p>○梅雨についての話し合い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・梅雨についてその間の約束をする ・雨のお絵かきをする(自由) ・雨にちなむお話を聞く ・雨のリズム遊びをする <p>○お部屋のあそび</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年長なので梅雨の間部屋での遊びをひろく取上げてみる ・年少のようにままごとより発展したものでもよい ・お店やさんから動物園から発展したものでもよい ・集団あそび ・音楽会 <ul style="list-style-type: none"> ・これらの遊びもなるべく子供達のあそびから取材し又子供達から遊び出すよう誘導しなければいけない ・室内遊びはとかく雑然と騒然となり易いからよくそこに指導しなければならぬ 	<ul style="list-style-type: none"> ○熊と子供達 ○海ひこ山ひこ ○ぶたの旅 ○かさやの長吉 ○人形芝居 ・先生もしてみせてあげるもの

觀察

○幻燈

人形芝居等は別に題はかいておかなかつたからその圖毎に適當なのをえらんでしてほしい。一つものをくりかえしてやつても子供達はよるこびます

○てんとう虫

子供達と一番密接なかわいいてんとう虫を子供達と一緒に遊びながらお庭の草木の所をさがすとつたものはどんな色か黒の点か赤の点か又いくつあるか等話合つて瓶にかつて部屋において觀察する
製作でてんとう虫の車等作つてもおもしろい

○時計

時の記念日を中心に年少だから話合ひして、自分達も腕時計置時計一つづゝ作る程度でよい

○金魚

春からずつと飼つて皆でかわいがつている金魚を、泳ぐ所、ごちそうを食べる所等話合ひながら觀察する、リズム遊びで金魚になつたり金魚のうたをならう、手技で金魚をつくる

○衣がえ

六月になり皆の洋服が夏服になる事もう春でなく夏の事を簡単に話す

○雨

梅雨の季節に入り雨がよくふる事、ものがくさりやすい事病

・自分達がやつてみせてあげるもの

○紙芝居

・先生がやつてあげるもの

・自分達が協同で又は個人でつくつたものとする

○幻燈

○衣がえ

年少と同じ

○時計

時の記念日を中心に時計やさんをみにいつたり話合つたり時計をつくつてお店やさんごっこしたりして遊ぶ、昔の時計はこんながある程度簡単に話しておく

○あぢさい・がく

紫色のくす玉のような花。小さい花が集つて一つの大きい花になつてゐる事。色が次第にかわつてゆく事。あぢさいと、がくとは少し形がちがう点をよく觀察させる
部屋にさして觀察するとよい

○梅雨

梅雨に入り毎日の天気状態変化を記録し話合ふ
他は年少と同じ

○かび

梅雨の時、ものが腐り易い事は話合ひ、かびも實際のがみせられたらそれをみながら觀察する

○虹

リズム

気も多い事等話合う程度でよい

○お百姓さん

梅雨期に田植をするお百姓さん何をする人か、私達のお米をつくる等話合い、実際にみられる所はお百姓さんの田植の様子をみられると尙よい

○かたつむり

雨になるとよく出てくるかたつむりお庭でさがして来たものは瓶に入れてかためみる

大きいもの小さいもの匂い方角を出したり引つこめたりする様子等観察する

うたでかたつむりを歌つたり、リズム遊びしたりする

○時計屋の時計

○時計のリズムあそび

すきな時計になつてカチ／＼と動く針になる入は中心にたつて少しづつ動く、リズムはとりにくいがるべくピアノにあわせてすきな表現するようにする

○かえる

○かたつむり

○雨のリズム遊び

雨になる人雨の日に出てくるかたつむりかえるになり又人は傘をさしてあるく、水たまりはビヨンととぶ等の自由表現をさせて遊ぶ(ピアノによくあわせておこなう)

○てんとう虫

○金魚

○かえる

雨のあがつた後缸がよくみられるその美しさを皆でみたい雨がすきで出てくるかえる種類がいろいろある事、とぶのがすき等話合う
リズム遊びしてかえるになつて遊ぶ

○時計屋さんごっこ

皆すきな時計にならせてお店へ並べる。お店の主人、お客様になる人を変える／＼きめ、お客様がくださいとかいけると時計が曲に併せて動きはじめる、一番よいのをかためてゆく。こわれて動かないのがあつたら主人は修繕してあげる

○雨のリズム遊び

お花がさいている畠にはじめお花がすきな様に曲にあわせておどる、あまりお日様が照つたのでお花がしおれてしまう(曲はしおれるように弾く)そこへかえるががつこ／＼なく雨がふつて来る雨の子供になつた子供達が曲にあわせて雨になるやつと花がいき／＼してよろこんでおどる。かえるも、でん／＼虫も出て来てよろこぶ

○お百姓さん

製繪
作畫

金魚にならせて自由に表現させる
今度は皆でお池をつくり、その中へ二三匹の金魚をかかわるが
わる泳よがせる

○ままだこと

年少も年長も自由表現を多く用いるリズム遊びはやはり曲がしつかりしていかないといふ子供達は動作がしつかりして、それでその所の表現に適當な曲を他の曲より抜曲したりしてもよいし、簡單でよいからその所の感じを出す曲を創作してやつた方がおもしろいと思う。

お百姓さんになつて種まいたり
種になる子供は次第に生長して花がさく表現を曲にあわせて
する

○時計つくり

置時計

腕時計

○ままだことの道具作り

画用紙でお皿、コップ等つくる

野菜、お魚、お菓子等も皆と工夫して、中味に紙屑かパツキ
ングを入れたりして立体的なものをつくりたい

○金魚つくり

・印刷した金魚をぬつて切るのと

・紙を与えて自分達が好きにつくる金魚とをつくる

・金魚鉢をつくり入れたり、来月の金魚やさんのためにたく

わえておいてもよい

○お魚かき

自由

雨の日の事

○えのぐお魚かき

○時計つくり

画用紙でつくつたり

空箱を利用してつくつたり

花時計とか動物時計とか種とその形をした時計をつくり又皆
と工夫してたのしい時計にした

○金魚の家

金魚鉢のようにしてもよいし水族館の金魚のように空箱を利
用してその中に入れてもよい

金魚は自分で好きに画いたものがよい

来月の水族館のために少しつくつておく。

○お魚かき

自由

雨の日

○えのぐお魚かき

○切紙(自由)

○木工細工

(20頁より続く)

〔註〕 向性検査、向性指数の選出方法

V.Q (向性指数)

$$= \frac{\text{外向点} + \text{無応答}}{25} \times 100$$

イ) 健康状態

健康の面からしても、やはり身体的には丈夫な幼児であり、体軀を見ると様々であるが、元氣活潑な明朗さのある幼児であり、凡てリーダーになつた幼児は健康的に恵まれた者であつた。弱身者にては、やはり、リーダー格としては認められないのである。

ロ) 情意的な面

此の面で見ても、やはり、リーダーになる幼児は、他の者を抱擁する雅量と落着きのある者なるのである。

以上四面を觀察して解る様に、實施的な面を以つて、明らかにされたのであるが、此の四面を総合して私は特にリーダーとして必然的に備わらなくてはならぬ要素と名付けるのである。

以上の如く、リーダーとしての各観点を実体調査したのであるが此の調査は飽く迄も只その表面的記録を眺めるに止まらずして、我々は今後に残された幼児の教育的面を探究し、真理に導いて行く様努力したきものである。これを以つて幼稚園児のグループリーダー形成に就ての研究発表を終ることとする。(筆者京都市西山幼稚園長)

習 慣 の 健 康	習 慣 の 健 康	
<p>〇 協同でつかう玩具等はゆずり合つて仲よくつかう</p> <p>〇 先生、友達になにかしてもらった時はありがとうとおれいをいひますよう</p>	<p>〇 濡れたものは何時までもつけてないでかわかしてもらう</p> <p>〇 外に出る時は帽子をかぶつてゆく</p> <p>〇 物を頂く時わ、特別手はきれいによくあらう</p> <p>〇 水道の蛇口より少し口をはなして水をのむようにする</p>	<p>〇 指画</p> <p>〇 切紙(自由)</p>
<p>年少と同じ</p>	<p>年少と同じ</p>	<p>小さい金槌とのこぎり、釘を用意し板は葎の空箱をこわしてそれを用い。好きなものを適当につくらせる</p> <p>協同な用い方、床にじかにしないでごさをひいてするとか、その他園による約束をする</p>

僕にとつて一番興味があるのは生活程度の
 ひくいアメリカの田舎でした。そんなこと
 を念頭において、昨年の暮から今年の正月
 にかけて、リオグランデと言うテキサス州
 とメキシコ合衆国の向を流れる河のあたり
 を歩きまわりました。

アメリカの心理学や精神医学の一つの行
 き方は幼児の頃からつきまといつているその
 文化環境、生活環境を調べると、特に全く
 違つた形態の文化環境をくらべてそこから

鍵を得ようとする立場が盛んで
 す。僕のいるテキサスのとなり
 はニュー・メキシコ州で、こゝに
 は四国位の大きさのナヴァホ・
 アパッチなどのインディアン領
 土が政府の保護のもとに残つて
 いて学者たちはしばしばその調
 査にあたつています。僕が指導
 を受けているメキシコ人の教育
 心理学者サーチエス博士もその
 一人です。

さて僕の今度の旅行にはそれと
 同じような意図がなんとなくひ
 そんでいました。アメリカから

カナダをこえるときはその差はたいしたこ
 とがないのに反して、いつたんメキシコ
 の方へ入ると、世界が全くかわります。
 泥づくりのかたむきか、つた家々、はだ
 して歩く老人たち、むらがる靴みがきの子
 供、それらは全てうらぶれた詩です。哀調
 をおびたメキシコの音楽が街に流れ、白い
 インディアンに大きな妻わら帽をかぶ
 つた人々は屋間から酒をのんでいます。こ
 れもメキシコ市モントレイ市のような大都
 会になるとずつと近代化されてアメリカそ
 つくりになるのですが僕のみた範圍では非
 常に貧しさを感じました。
 カトリックが盛んで修道女たちが幼稚園
 をひらいています。その他心ある人々は教
 育にとつても熱心です。しかし僕の感じた
 結論は、我々は貧しすぎてはいけないと言
 うことでした。この貧しい人々の努力が、
 おしみなくお金をつかつて行くアメリカの
 幼児教育とちがつてなかくのびて行かな
 いのはたしかに悲しいことです。
 さあ日本の状態はどうでしょうか。僕は
 その貧しい石造りの教会の中でメキシコイ
 ンディアンたちと一語にひざまづいて心か
 ら日本の将来の発展を祈りつづけたのでし
 た。

☆ ☆ ☆

メキシコの旅からテキサス大学の所在
 地、オースティンへかえると、ふた、び大
 へん多忙になりました。知覚の問題を性格
 に結びつけて研究しているブレイク博士の
 もとで、ひどく難解なゼミナールに出てい
 るからです。知覚が自我のような高度の精
 神機能と深い関係があることは、ゲシタル
 ト学派の説明を待たなくても明らかなこと
 ですが、新しい力学的な考察と、近年に発
 達した数学理論が、知覚の問題の奥に横た
 わつている高度の精神機能をつかみ出そう
 としていきます。これは、やがて心理学はか
 りでなく精神病理学のためにも何か基礎的
 な理論を生み出すでしょう。
 その他サンチエス博士のもとで人種的偏
 見の対象になつていゝングロ、メキシコ人
 などの社会心理学的分析を行つています。
 これはブレイク博士の研究のように基礎的
 なものところが、むしろ応用的な分野で
 す。テキサスでは、有色人種の子供が白人よ
 りおとつていゝという立証は出来ません。
 私はそのことよりもむしろそのように有色

私はそのことよりもむしろそのように有色

アメリカだより

人種を待遇しなければならぬアメリカ社会の病理に興味を持ち始めています。臨床心理学者が個人の心の病気を治すように、社会心理学者は社会の病気を治すようにつとめなければならぬでしょう。「このニグロの子供たちは白人の映画館にも行けないんですよ」と悲しそうに云うカトリックの幼稚園の修道女、バスではうしろの有色人種席にしかおれないで、可愛らしいくりくりした眼を前方にむけているニグロの子供、そうしたことも、知覚や性格の分析をやっている科学者としての私でなく、一個の人間としての私の心を限りなく暗いものにするのでした。

最近のニュースはこの大学の前の総長のペインター博士の公式のお客様として、北海道大学の動物学の教授、牧野佐二郎博士が私たちの大学の研究室ですごしていられることです。アメリカの学者達は、あげてこの濃厚な牧野博士を尊敬していて、私達日本人はそれを心からほこりに思っています。私の専門領域とは遠からぬその先生と共に、毎日、夕食を共にしながら色々な事を教わります。又、学士院会員で、遺伝学者として有名な、木原均教授も、近くニュー

ヨークから、この大学に來られるとかで、楽しみにして待つています。アメリカでも心理学者が遺伝の問題をとりあげるのには、昔程盛ではありませんが、私は、此の問題は、これから提出されるべきものだと思っています。

向、「キンダーブック」や「幼児の教育」が毎月届くので、有難く思っています。アメリカでも、保育歯科学に對する一般の関心が——勿論日本の数倍も高いにしろ——未だ、満足すべき状態でないので、保育医学研究会の深田英朗、梶原文子の諸氏の、報告を紹介して大変な興味を持たれました。


倉橋惣三教授、吉見静江、秋田美子、鈴木とく、山村きよ、大島文義、青柳美智代の諸氏に依る、座談会「幼児問題を語る」は日本の実情がべつ見出来てとても有意義だと云う事でした。特に吉見氏は、私の二年近くも住みついている、このオースティン市で何ヶ月か過されたのでその名前を覚えていた人もあつて、なつかしがつていました。

たゞし、「テキサスはアメリカの中であまり教育が進歩した所でない」と云う御意見には、皆んな、くすぐつたような顔をして

反對していました。

私の友人の保育に關係を持つ医学者や、心理学者は、全て、日本の保育者との連絡を望んでいます。れうけたまわるところに依ると、この大学で一人日本人から学生費支給の留学生を迎えるとの事らしいので、出来得れば、私達の分野から、有意義な人が來られるといふと、願つている次第です。又、私のごく仲の良い、友人も、近く渡日するし、児童の発達学をやつている友人も、「幼児の教育」に出してもらえたらと云つて原稿を書いています。色々な意味で、この国と、日本との、橋渡しの彼が少しでも出来ればとても幸です。

近く、新しい仕事にかゝります。その中休みを利用して、ミシシッピ—河の河口にある元フランス領の古都市、ニウォルリエンスへ、旅行しに行きます。旅は絶えずほのかな期待と、抒情と、はてしない旅愁をさそつて若い私の魂をゆすぶるのです。

 Texas U.S.A. 相場均

この子供たち

(2)

イーデイス・ウオートン作
松原至大譯

母親のよゆうな少女

その若い婦人が、腰をおろした椅子は、クリフ・ホキータ夫人であることを、ポインは教えてやろうかと思つた。ポインの知つていたジョイス・ホキータは、おとなしく席をゆずるような女ではなかつたから。

「失礼ですが、どなたか、ほかの方が、その椅子にくるようなことがありますといけませんから、ぼくが、ほかのを見つけてあげましょうか。前列のがふさがらない中に。」

これは長たらしくて、ぎこちない言い方であつた。上手にいいたいと思つているうちに、出てしまつた。その若い婦人は落ちついていて、言葉かけられたことには、驚かないようではあつたが、言葉の意味に驚いたようであつた。

「私の席ではないのでしょうか。」こういつて、その婦人は、名札を調べた。「やつぱり私のでした。」

「これは、とんだことを——」

「よろしいですよ。込んでおりますから。」

ブランカに似た長いまつ毛の下から、かの女の褐色の目が、やさしく注がれた。ポインの好意がわかつているように、けれどポインはとまどつたので、星あかりのような、ぼうつとした目のほかには、なにも見えなかつた。

そんなら、この少女が、クリフ・ホキータ夫人なのか。なるほど、そうでないわけではない。ポインの思つていたクリフ

・ホキータ夫人とはちがつてはいたが、今日のように夫婦というものの組合せの、移り変りのはげしい時代には、こんなことが、あり得ないことはない。かれの知つているホキータ夫妻は、二十年前に結婚をしていた。その間にクリフ・ホキータは、半ダースの離婚と結婚をして、それに必要な費用を、楽に出せるほどの金を作つていた。

「あの男にとつては、そんなことは新しい家を建てるのと同じことで、ヨットでのりまわすよりは、ましなことである。」と、ポインは、半ばうらやましげに思い出した。

そうだ、お隣りにいるのは、正しく最近のホキータ夫人である。おそらく二三人の男は、あの気の毒なジョイスから離れて行つたのであろう。でも、なぜポインは、ジョイスのことを、気の毒なと思わなければならないのか。いろいろと考へてみると、かの女は、結婚という将棋盤の上を、かの女の最初の夫と同じ速度をもつて、前進したのであつた。

とにかく、この若い婦人が、新しいクリフ・ホキータ夫人であるならば自分が、かの女の夫の旧友であることを、ポインは、ほのめかしてよいであらう。漫遊的な船の旅では、それが至つて当り前のことに思えた。けれどポインは、先程テリイが、父親の名を耳にしても、冷やかであつたことを思い出してためらつた。こうしたモダンな結婚生活のもつれば、他人にとつて危険が充満している。

その疑問は、ブランカが現れてきたので、解かれることになつた。この女の子は、たちじや、こゝろ草の花の上を舞う蝶のように踊りながら、ポインたちのところによつてきた。そばへ来ると、若い婦人は、たしなめるように言つた。

「あなた、なぜオーヴァを着てこなかつたの。早くスコープの所へ行つて、着ていらつしやい。風が冷めたくつてよ。」
ブランカは抱きつくように、若い婦人により添つた。そして「ええ。」とは言つたけれど、からだを起すかわりに、ポインの方を見て「あのおじさん、おとうさんをご存じだつて。」といつた。

若い婦人は

「珍しいわね。」といつたが、またブランカにむかつて、

「あなた、オーヴァを着ていらつしやいというのに、そしてテリイも着ているか、見てきてちょうだい。——そんなに、

私によりかかるとなしく、つま先を立てて歩いて行つた。この時ポインは、冒険の愛護者であつたエドワード大伯父を心に念じながら、思いきつて

「なかなかよくお仕込みですね。」といつた。すると若い婦人は笑つて

「いいえ、みんなよい子供ですわ。」といつたが、急に言葉をかえてしまつた。「まあ、ジュー」

若い婦人のあきれたまなざしを追つて、ポインも眼をあげた。そこには、デッキに二列に並んでいる椅子の人たちを驚かせながら、また喜ばせながら、オレンヂ色の髪に、琥珀色の玉をつらねて、まはだかである一人の子供がいた。

と見る間に、この若い婦人は立ちあがつて、ポインの胸に、石鹼のかおりのするかたまりを押しつけて、

「チップを抱いて下さい。」といつたかと思うと、「まあ、あの赤いお馬鹿さん。」といいながらデッキを走つて行つた。

オレンヂ色の髪の子をつかまえると、きつくゆすぶつて、これがこの子の最悪の罪でもあるかのように、

「今に何をひいてよ。お馬鹿さん。」としかつた。そして追いかけてきた家庭教師のスコープに、その子を渡すと、ポインのところにもどつてきた。

「まあ、お上手に抱いて下さいましたわねえ。」といつて、まだ眠つてゐるチップをうけとつた。

ポインに向けられたその眼には、親愛の情がこめられていた。しかもブランカのまなざしよりも、もつと若々しいものであつた。

「あなた、赤ちゃんのお世話をなさいました。」

「ええ、だが、こんなよい子ではなかつた——こんなに重くもありませんでしたよ。」

「この子は、普通の子供の二人分よりも、二ポンドも重うございます。ピーチーは、この位の時、たつた……」

「ピーチーさんとは。あなたは、さつきジニーとおつしやつたようでしたが。」と、ポインは言葉をはさんだ。

「ジニー。あら、ピーチーとはちがいます。ピーチーは、おかあさんのちがう子、でも、あんな子つてあるかしら。」かの

女は、ひとりで思い出していた。

「おかあさんのちがう子。」ポインは、いよいよ困つて、ただ繰り返した。

「バンとピーチー。この二人は、半分だけ私たちの家のお家のものです。ジューも、そうすわ。でも私たちは、ほんとうのきょうだいのようにしておりますの。バンがいたずらをする時だけは、別なのですけれど。バンは、ほんとうにいたずらつ子よ——まあ、もう一度チップをお願いします。今度は、バンよ。ほつておくと、なにをするかわかりません。」

赤いジャンパーを着て、日焼けした少年が、叫びはいいになつて、なにかけもの真似をしながら、こつちへ来るのであつた。「あの子は、動物ごつこをしているのよ。あら、できやしない。こんなに船がゆれているんですもの。あの子のおかあさんは、ライオン使いでした。あら、怪我をしてよ。そう、スコビー、その子を連れてつてちょうだい。」

やせた胸幅のせまい、でも、親切そうな、しつかりものらしい女が、灰色の髪の上に、色のあせた麦わら帽を横つちよにかぶつて、バンのすぐ後から出てきた。バンをつかまえて、ゆれているデッキの上に、きちんと立たせた。バンはかんしゃくを起して、わめきそうになつた。その時、大きなめのう色の目を持った黒いまき毛の褐色の小な女の子が、一等船室からとび出してきて、両手をひろげながら、バンの方へかけて行つた。するといたずらつ子のかんしゃくが、すすり泣きにかわつて、小さな二人の子供は、抱きあつたかと思つと、芝居がかつた泣き声を出した。しかしその女に、それにはかまわずきびしい顔で、二人を船室へ連れて行つた。

ポインのそばにいた若い婦人は、笑いながら椅子によりかかつた。

「スコープつて、面白い人でしょう。今みたいに、バンがピーチの首に抱きつくのが、とてもきれいなのです。『外国人らしくて、男らしくない』つて申しますの。あの二人は、イタリア人ですの。でも、バンはピーチーのいうことを、よくききますから、私、感謝しています。そうでもなかつたら、私たち、あの子に、つきつきりになつてなければなりませんの。』」
ういつて、よく眠つているチップを、胸に抱きしめた。

「こんなに大勢の子供さんを連れて、旅行なさるのは、大へんですな。それに、ホキータ君の手助けもなしに。」と、ポイ

ンは追求した。

これを聞くと、婦人はちよつと肩をすばめて、さげすむように、けれどもやさしく答えた。

「あの人は、とても手助けなんていたしません。私たちといつしよに、旅行をすることもきらいなのです。でも、テリーが手伝つてくれますので。」

母親らしいやさしい笑みが、変化の多いかの女の小さな顔に輝いた。顔の中には、いろいろな表情が行き通いして、それが美しいのか、それともかわいだけのものか、ボインには、判然ときめることができなかつた。

「ぼくと同じ船室になさる子ですな。そう、あのくらい大きな子なら、お楽しみですね。」

ボインには、「大きな息子さん」とはいえなかつた。この若い婦人が、テリーのような大きい少年の母親であるとは、とても思えなかつたから。だが、この婦人は、その少年を、母親のちがう子の中には、入れていなかつた。なにがなんだかわからないので、ボインは思いきつて、いつてみたのである。

「あのくらの男の子は、いつも母親の自慢をするものですね。」

すると若い婦人は、なんと答えてよいのか、考えているようであつた。

「そうですすね。テリーが、ジョイスさんのことを自慢しているか、どうか、私にはわかりませんが。でも、勿論、尊敬はしています。私たちは、みんなそうですわ。あの人は、きれいですもの。ブランカだつて、とてもかかないはしません。」

ジョイス・ボインはなつかしいその名を、救命帯のように、しつかりとつかんだ。旧友ジョイス・マーヴィンは、たしかにまだ、このホキータ迷路の、どこかに居るにちがいない。だが、どこにいたのであろう。そしてかの女のクリスチャン・ネームを、このように親しげに呼ぶこの若い婦人は、一体なにものであろう。わかりかけてきたと思つた総てのことが、またもつれてくるのであつた。

「あなたがおつしやつたジョイスさんは、大分以前、ぼくの親しい友人でしたが。」

「まあ、そうでしたの。ああ、うれしい。若い時は、ブランカそつくりでしたつて、あの人、おつしやいました。今は少

しふとつています。自分で思うほどではないのですが、それを気にして、今の大きな不幸は、それですつて。」

ポインは笑つてたずねた。

「では、今はそれ以上の不幸はないというのですね。」

「ええ、ありませんとも。二人で新しいホネームーンをしているのですもの。チップが生れてから……ねえ、チップおに
いちゃん。」

「二人で——」

新しいホネームーンをしているのか。チップが生れてから。それではこの眠つている幼児は、ここにいる若い婦人の子供ではなくて、ジョイス・マーヴィンのか、ジョイス・ホキータのか、それともジョイス・なにがしのか。ポインは、それが聞きたくてならなかつた。

踏み入れた最後の一步で、正しくポインは、迷路のまん中にはいつてしまつた今はどうして出口を見つけろかが、問題である。けれどこの若い婦人の親しなは、かれを信頼しているようでもあつた。あるいは、それはかの女が新しい人に接する、いつもの方式であるかもしれない。だが、荒地から出てきた時代おくれの人間は、それをなにか、同情のしるしとか、または新しい質問に新しい暗示を与えてくれたものかと思つてもよいであろう。

「そう、ほんとうに仲のよい友人でした、一冬の間——」

「それは、永い方だわ。ジョイスさんとしては。」若い婦人が、いい添えるようにいつた。

「そういう間がらですから、ぼくは自分の名を、マーティン・ポインというのを、あなたに申し上げたのです。あなたのお名は——」

「あら、まあ。」若い婦人が、あまりにも大きな声を出したので、ポインの最後の言葉は、ぼつきりと折られてしまつた。初めのうちは、なにごとが起つたのか、わからなかつた。だが、間もなくわかつた。パンが緊足のままで、デッキのせまところを猫のような速さで歩いていたのであつた。椅子にかけていた人たちは、自分の方へくる道を作つて、手をたたいた。

ていた。

「網わたりも名人だつたのよ、あの子の母は。」こういつて、若い婦人は、パンの方へかけて行つた。そしてつかまえると平手でたたいた。パンがわめくと、一層はげしくたたいた。それからとり乱しているスコープのそばに、パンを引きずつて行つて渡した。席にもどつてくると、若い婦人は、青ざめて息切れがしていた。ポインのそばに腰をおろして、

「あなたが、結婚なさるのなら、お子さんをお持ちにならないように。悪いことは申しません。母や父が、私たちと旅行をしたがらないのも、無理はございませんね。」といった。

ポインは「どうしてこの婦人は、自分の独身なのを知っているのでしょうか」と思つた。

* * *



(お知らせ)

倉橋先生を中心とした保育応答研究会は、種々の都合によりまして、残念ながら昨年十二月迄で、とり止めさせて頂きます。

毎回御熱心な多数の方々の御参加を頂きましたことを、心から感謝致しますと共に、右の件をお知らせ致します。

フレーベル館内

保育応答研究会係

幼児の教育 第三巻 第六号

定価 金五十円

昭和二十八年六月二十日発行

東京都中野区千光前町一〇

編集兼 倉橋 惣三

発行者

東京都文京区大塚町三十五

日本幼稚園協会

発行所

東京都板橋区志村町五番地

印刷所

凸版印刷株式会社

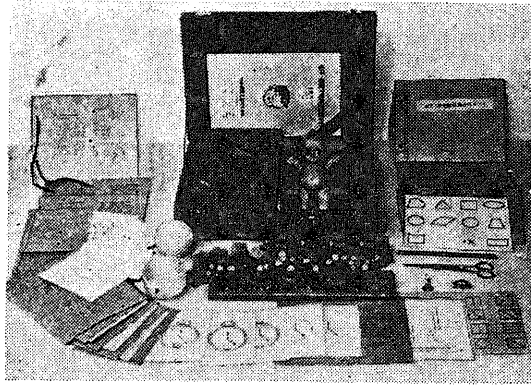
発売所

株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

〇本誌御購読について、注文申込その他はすべて発賣所フレーベル館宛願います。

山下・幼児発達検査器



定手
価提
三用
五ケ
〇ノ
〇ス
円入

竹井機器工業株式會社
(旧名竹井製作所)

(御希望の方には本用具の実施手引を拝送いたします)

上の、幼児発達検査は、長年、児童心理学の研究を続けておられる山下俊郎先生が、ミネソタ就学前尺度の長をとり、愛研法、田中・ビネー法、鈴木・ビネー法の問題についても、標準化実験によつて検討を加え、編成されたものです。幼稚園、保育園、児童相談所などに必備のものと思ひ、ひろく御すゝめ申上げる次第であります。

本社 東京都港区片門前二ノ四
電話芝(43)六〇六五
出張所 大阪市東区道修町一ノ十一
電話北浜(23)五五三一
加藤ビル内

刊 新

お茶の水女子大学名誉教授

倉橋惣三先生著

幼稚園眞諦

B 6 一四二頁 予價一八〇円

久しく絶版になつておりました、「幼稚園眞諦」を改訂復刊いたしました。

幼稚園保育の、眞の在り方を、平明な説き方によつて、講じられたもので幼稚園の理解と、再考究とのために、必読の書であります。

副島ハマ先生著

折紙教本

B 6 上製 二六四頁 定價二五〇円

品切の為大変御迷惑をおかけしておりました折紙教本がこのたび新装成つて出来上りました。御用命下さいませよう。古来我が国独特の優美な手芸として幼児に親しまれてきた折紙を指導されるには絶好の図書として広く御推薦致します。

發行所 株式会社 フレーベル館

東京都千代田区神田小川町二ノ五

7 月 号 予 告

観
察

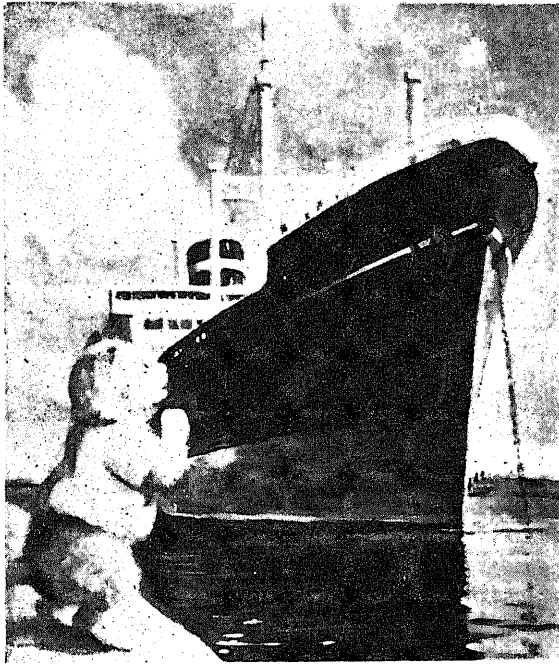
キンダーブック

絵
本

第 8 集

【たのしいふねのたび】

第 4 編



☆お子さま方の感情と知識の

成育のために古く広く好評の高い本☆

A 4 判 16 頁・月一回発行
解 説 付
定 価 45 円・送 料 8 円

楽しい船のたび

ときは七月、白熱した
太陽の下、光の粉がさん
さんと青い海原に降りそ
そいでいます。かもめが
輪を書き、飛魚が群がり
飛び出した向う側、白波
をじやれさせ勇ましく進
んでいる大きなホテル、
あれが汽船です。遠い見
知らぬ国へお使いに行く
のだそうです。そして！
とても楽しいたびですよ
！と、いつか船長さんが
話してくれたことがあり
ました。
青々とした大空が、両
手を広げて待つ地平線へ
と、くあたり、ほら汽船
がその中へ小さく消えて
行きますよ。

発 行 所

東京京千代田区神田
小川町二丁目五番地

株式
会社

フ レ ー ベ ル 館

振替口座東京
一九六四〇番